

門凡呂
號433
卷4



新編鎌倉志卷之四目錄

鐵井 附鐵觀音 鎌倉十井

志一上人石塔

松源寺

巖窟不動

華光院

上杉定政舊宅

壽福寺

英勝寺

源氏山



阿佛卵塔跡

智岸寺谷

泉谷 附泉井

淨光明寺 附綱引地藏 東林寺舊跡

相馬天王祠

藤原為相石塔 附忍性石塔

藤谷

扇谷 附扇井 飯盛山 大友屋敷

梅立寺 附熱田社

法泉寺谷

御前谷 附尼屋敷

清涼寺谷

海藏寺 附底脫井

山王堂谷

景清籠

播磨屋敷

梅谷 附綴喜里

武田屋敷

假粧坂

六本松

葛原岡

梶原村

新編鎌倉志卷之四

河井恒久友水父纂述

松村清之伯胤父考訂

力石忠一叔貫 參補

○鐵井

附鐵觀音 鎌倉十井

鐵井（名）ハ。雪下（名）西南ノ路傍ニアリ。里人云此井ヨリ

鐵觀音ヲ掘出シタル故ニ名クト。今鐵ノ井ノ西向

ニ鐵像觀音大ナル首（名）バカリ小堂ニ安ス。臆ハ崩テ

堂内ニアリ。新清水寺ノ觀音ト云傳。今按スルニ此

觀音堂ノ西ニ巖窟堂（名）アリ。東鑑ニ正嘉二年正月

十七日。秋田、城介泰盛が甘繩ノ宅ヨリ火出テ。壽福寺。新清水寺。窟堂。若宮ノ寶藏。同別當坊等焼亡ストアリ。然ラハ此災ニカ、リテ。土中ニアリシヲ掘出シタル歟。鎌倉二十井アリ。棟立井。瓶井。甘露井。鐵井。泉井。扇井。底脱井。星月夜井。石井。六角井。此ヲ鎌倉ノ十井ト云フ。

○志一上人石塔

志一上人石塔ハ鶴岡ノ西町屋ノ後。鶯谷ト云所ノ山ノ上ニアリ。里人ノ云。志一ハ筑紫ノ人也。訖アリテ鎌倉ニ来レリ。已ニ訖モ達シケルニ。文狀ヲ本國ニ志一置

テ如何セント思ハレシ時。平生志一ニツカヘシ狐アリシカ。一夜ノ中ニ本國ニ往キ。明曉彼文狀ヲクワヘテ歸リ。志一ニ奉リ。其下、息絶テ死ケリ。志一訖カテヒシカハ。則彼狐ヲ稻荷ノ神ト祭り祠ヲ立ツ。坂上ノ小祠是也。志一ハ管領源基氏ノ代ニ。上杉家崇敬ニヨリ。鎌倉へ下ラレケルトナシ。太平記ニ。志一上人鎌倉ヨリ上テ。佐々木佐渡判官入道道譽ノ許へオハシタリ。細川相模守清氏ニタノミレ。將軍ヲ呪咀シケルトアリ。

○松源寺

松源寺ハ日金山ト號ス。錢觀音ノ西。巖窟堂ノ山ノ中

壇ニアリ。本尊ハ。地藏。運慶カ作。相傳フ。賴朝卿。伊豆ニ配。流ノ時。伊豆。日金ニ祈テ。我世ニ出ハ必ズ地藏ヲ勸請セント約セシ故ニ。コヽニ移スト云フ。

○巖窟不動

巖窟不動ハ。松源寺ノ西。山ノ根ニアリ。巖窟ノ中ニ。石像ノ不動アリ。弘法ノ作ト云フ。東鑑ニ。文治四年。正月一日。佐野太郎基綱カ窟堂ノ下ノ宅焼亡。鶴岡ノ近所タルニ因テ。二品朝宮中ニ參給フトアリ。此處ノ事ナラン。此前ノ道ヲ巖窟小路ト云フ。東鑑ニ。大學助義清。甘繩ヨリ。龜谷ニ入。窟堂ノ前路ヲ經ルトアリ。

リ。此路筋ナラン。東鑑ニハ。窟堂トアリ。俗或ハ岩井堂ト云フ。巖窟堂。今ハ教圓坊ト云僧持分ナリ。昔ハ等覺院ノ持分ナリケルニヤ。岩井堂日金事。可レ被レ立卯塔之由承候。先ツ目出候。然者。御万歳夕。至于三會之曉。留慧燈於彼地。可レ覆慧雲於他界。給之。殊以令庶衆候之間。以彼所限。永代奉避。渡候。兼又同以被申方候之由承候。其段可令存知候也。恐々謹言。應永卅三年。七月十七日。等覺院法印御房へ尊運判トアル尊運今河狀アリ。又岩井堂日金事。如來院僧正。任證文。成敗不可

有相違候。恐々謹言。五月九日。等覺院へ。空然
判トアル狀アリ。空然。古河源政氏子。

○華光院

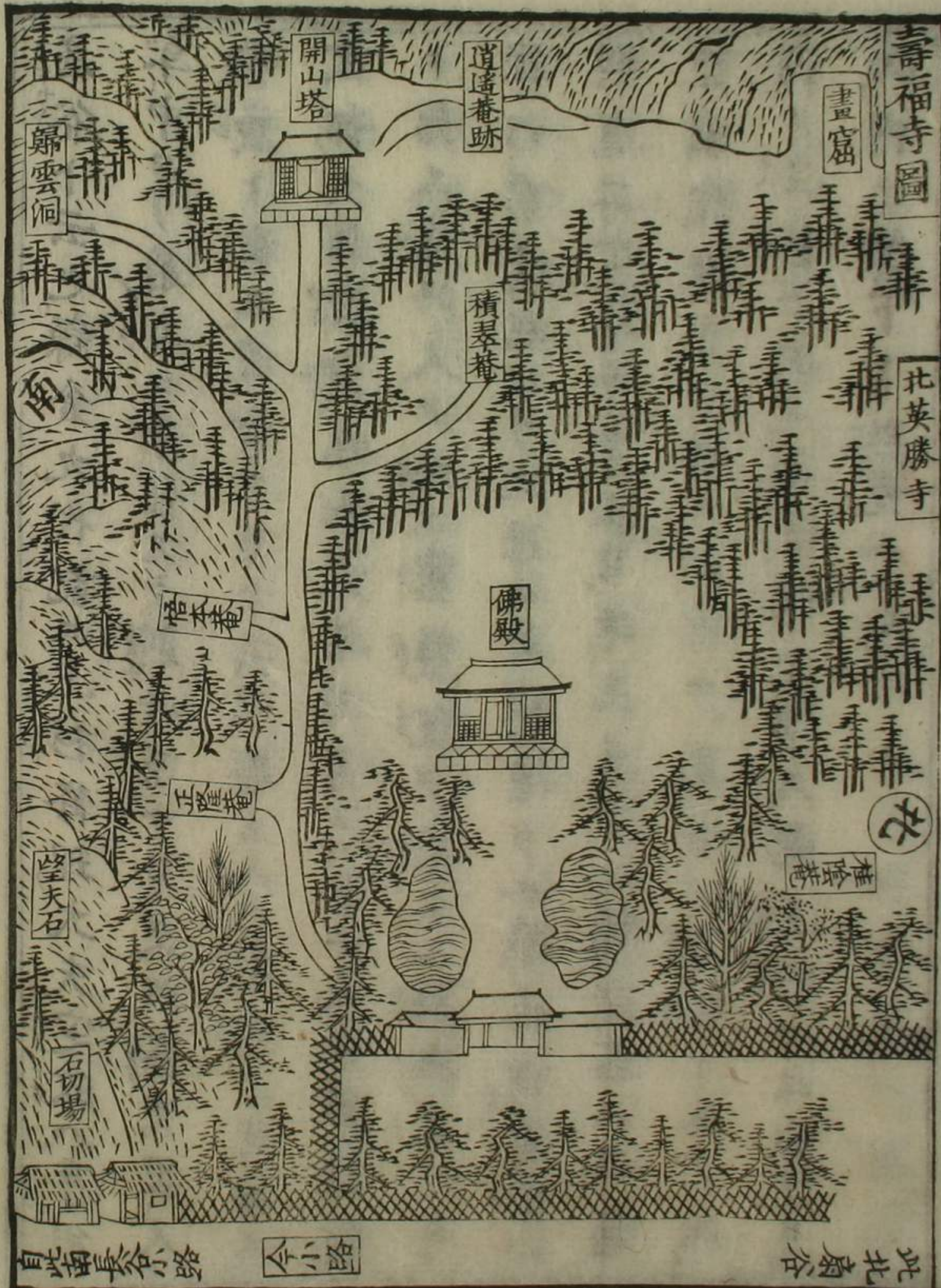
華光院ハ。壽福寺ノ東向ナリ。真言宗。本尊ハ不動
佐介谷稻荷別當ノ所居也。昔ハ壽福寺ノ塔頭ニ
テ。壽福寺新命入院ノ時ハ先此院ニ入テ。ソレヨリ
壽福へ入院スト云フ。榮西ハ。顯密禪十九故ニ。始ヨリ
真言宗ナリ。今ハ別院トナリヌ。

○上杉定政舊宅

上杉定政舊宅ハ。華光院ノ前ヲ云フ。今ハ畠也。此地ヲ

扇谷ト云也。錄倉九代記ニ。上杉修理大夫定政ハ。亨德
年中ヨリ。扇谷ニ居住スト。則此所ナリ。又此畠ヲ。里人。
靈巖ト稱ス。昔寺アリト云フ。按スルニ。定政ノ先祖ニ。
式部大輔顯定。永和六年。四月二日ニ死去。靈巖院
ト稱ス。後此人ノ為ニ。靈巖院ヲ建タル跡歟。或ハ亨
德以前。先祖ヨリ此所ニ居宅有ツル歟。未詳。定政ハ
明應二十年。十月五日。逝去。五十一歳。法名ハ大通
護國院範了ト稱ス。此所ヲ扇谷ノ上杉ト云フ。山
内ノ上杉ト共ニ兩管領ト稱ス。兩上杉トモ云ナリ。
山内ノ條下ト。照見ルヘシ。

壽福寺圖



○壽福寺

附龜谷

源氏代一ノ屋敷

壽福寺ハ龜谷山^{カミヤ}金剛壽福禪寺ト號ス。五ノ山ノ
 第三十リ。開山ハ千光國師榮西。本朝禪宗ノ鼻
 祖ナリ。元亨釋書ニ傳アリ。此地ヲ龜谷ト云。故ニ
 山ヲ號トス。源氏山ヲ。本龜谷山ト云。龜谷ノ中央
 ニテ。當寺ノ西北ナリ。扇谷梅谷泉谷ナドハ龜谷
 ノ内ナリ。龜谷坂ノ條下ニ詳ナリ。此地ハ古源賴
 義。同義家。東國征伐ノ時。源氏山ニ登^{ノボリ}。後源氏山
 地ニ居住セラル。後ニ義朝。爰ニ居住アリ。源氏代ノ
 宅地ナリ。東鑑ニ。治承四年。十月七日。賴朝卿。故

左典廐義朝ノ龜谷ノ御舊跡ヲ監臨シ給。則當所ヲ
 點シテ御亭ヲ立ラルベキ由沙汰アリト云ドモ。地
 形廣ニアラズ。又岡崎平田郎義實。彼没後ヲ弔々
 テマツランカ為ニ。一ツノ梵宇ヲ建。因テ其儀ヲ止ラル。同
 五年。三月朔日。賴朝御母儀ノ御忌日タルニ因テ。
 土屋次郎義清同崎義實カ龜谷ノ堂ニ於テ佛事ヲ
 修セララル。又正治二年。閏二月十二日。尼御臺所
 ノ御願トシテ。伽藍ヲ建立センカ為ニ。土屋次郎義
 清カ龜谷ノ地ヲ點ジ出サル。是下野國司義朝ノ御
 舊跡ナリ。其恩ヲ報センカ為ニ。岡崎義實兼テ草堂

ヲ立。同十三日。龜谷ノ地ヲ葉上坊律師榮西ニ寄
 附セラル。清淨結界ノ地タルベキノ由。仰下サル。結界
 等其地ニ行。道ス。施主監臨シ給フ。義清假屋ヲ構
 へ珍膳ヲ設。建仁二年。二月廿九日。故大僕卿義
 朝ノ沼濱ノ御舊宅ヲ壞テ渡シ。榮西律師ノ龜谷
 寺ニ寄附セラル。此事當寺建立ノ最初。其沙汰有ト
 イヘドモ。僅ニ彼御記念ノ為。幕下將軍。殊ニ修復セ
 ラレ。其破壊暫ク顛倒ノ儀アルベカラザルノ由。定メ
 ラルノ所ニ。僕卿尼御臺所ノ夢中ニ入テ。示サレテ
 云。吾常ニ沼濱ノ亭ニ在テ。海邊ニ漁ヲ極ム。コレヲ

壞テ寺中ニ建、立セシメ。六、樂ヲ得ント欲スト。御夢覺テノ後、善信ヲシテ記サシメ。榮西ニ遣ハサルトアリ。元久元年、五月十六日、尼御臺所、金剛壽福寺ニ於テ、御佛事ヲ修セラレ。祖父母ノ御追善トアリ。今寺領八、貫五百、文アリ。

外門 昔シハ天下古刹ト。額有シト也。今ハ七、夕リ。

佛殿 本尊ハ、釋迦文殊。普賢ナリ。釋迦ハ陳和

卿カ作ナリ。俗ニ是ヲ籠釋迦ト云フ。籠ニテ作り。

上ヲ張タルモノナリ。祖師堂ニ、達磨臨濟。百文。

開山像アリ。土地堂ニ、伽藍神。并ニ前住ノ牌。將

軍家牌ドモアリ。

千光寺寶

舍利 三、粒アリ。五塔ニ納ム。是ヲ松風ノ玉ト號ス。

積翠菴ニアリ。相傳フ。實朝ノ所持也ト。東鑑ニ、建

曆二年、六月廿日、實朝將軍、壽福寺ニ渡、御之

給ス。方丈手ツカラ。佛舍利三、粒ヲ相傳セシメ給

フトアリ。方丈ハ、榮西也。此舍利ヲ。後又此寺ニ

納ムル歟。又建保五年、五月廿五日、壽福寺ノ

長老行勇律師ニ、年來御所持ノ牛玉ヲ御布

十施トセラルトアリ。今、無シ之。

十六羅漢畫像

十六幅。桂陰菴ニアリ。東鑑ニ。

正治二年七月六日。尼御臺^ニ。於^テ京都^ニ。十六

羅漢像ヲ圖セラル。佐^サ木^キ左衛門尉定綱^ニ。是

ヲ調進ス。今日到來。御拜見ノ後。葉上房ノ寺ニ

送奉^{ヨリ}ラシメ給フ。十五日。開眼供養。導師ハ。榮

西律師トアリ。其像焼失シテ。今存スルモノハ新

筆ナリ。

涅槃像 壹幅。新筆。

千光畫像 壹幅。新筆。贊大明黃檗ノ隱元作

已上

開山塔

逍遙菴ト號ス。今ハ菴ナシ。塔ハ積翠菴

ニ屬ス。法兩塔ト額アリ。開山ノ木像ヲ安ス。東

鑑ニ建保三年六月五日。壽福寺長老葉上僧

正榮^{モウ}西^{サイ}入滅。痢病ニ依テ也。結縁ト稱シ。鎌倉中

ノ諸人羣集ス。遠江守^親將軍家ノ御使^シトシテ。

終焉^ヲ。砌^ニリニ菴ト有。又元亨釋書ニハ。建保三

年。榮西。相州ニ在。一日。源僕射實朝ヲ辭ス。實朝

ノ云。師已ニ老タリ。寺未^タ成。何事ニカ行ヤ。對テ

云ク。我王城ニ入テ滅ヲ取ント欲スルノミ。駕ニ

命シテ。京師ニ歸リ。微疾ヲ示ス。建仁寺ニ於テ。

椅ニ坐シ。安祥ニシテ逝ス。實ニ七月五日ナリ。
年七十五トアリ。今按スルニ東鑑トハ異ナリ。然
レトモ京鎌倉ノ諸寺昔ヨリ七月五日ヲ示寂
ノ日トス。シカラバ釋書ヲ以テ正トスベシ。又如實
妙觀ト書タル牌アリ。二位尾平政子ノ牌ナリ。
東鑑脱漏ニ嘉祿元年七月十一日。二位家薨
御シ給フ。六十九是前大將軍ノ後室。二代將
軍ノ母儀也。同十二日戌刻御堂御所地ニテ
火葬シ奉ルトアリ。壽福寺ノ檀那ナルユヘ爰ニ
位牌アリ。日件錄ニ鎌倉右兵衛佐ノ夫人時

政ノ女也。壽百二十歳ニテ卒スト有。東鑑ニ六十
九トアルヲ正トスベシ

鐘樓 昔シイボナシ鐘ト云名鐘アリ。開山ノ時
宋ヨリ渡セリト云傳タリ。小田原陣ニ奪テ鐵炮
ノ玉ニ鑄タリト云フ。今有鐘ハ新キ鐘ナリ。銘ア
リ如左。

龜谷山壽福禪寺鐘銘

南瞻部州。蜻蜒國。相州路。鎌倉府。龜谷山。壽
福金剛禪寺。全盛初雖華鐘鵬鷄維夥矣。遭
奪亂世凶賊鯨音啞歲尚矣。今也。有積翠菴

檀越信士姓者藍田。字剛仲。諱宗堅。宗堅生
 涯發弘誓鑄一小鐘欲準擬華鯨峯舊時大
 備而未果泊逝去遺言於孝子投資財鎔鑄
 梵鐘以預伸三十三回忌供養且夫佛世梵
 王設祇桓金鐘不讓焉予感白業之丹悃
 不揆鄙拙叨為銘曰東海日域南宗津梁龜
 谷法苑驚峯餘香呼華凡地擬選佛場拈華
 三佛積翠千光成道鹿埜興禪扶桑快施法
 雨水溼異方假岐伯手依鳧氏良橐籥更奪
 模範相張華鐘再鑄蒲牢全彰聖界通響人

間息狂疑閣皂氣鳴豐山霜破塵勞夢存梵
 宮常檀越植德善緣無疆真靈解脫子孫殷
 昌宓回功勳上製大章蒼生歡娛天下安康
 省慶安四載歲舍辛卯季春日守塲勸緣比
 丘僧宣助緣者舊僧有帛掌財僧慧禎檀那
 藍田弥九郎谷工武州江戸住宇多川甚右
 衛門藤原親次見建長仁叟碩寬誌旃
 畫窟 開山塔ノ後ノ方山根ニアリ俗ニエカキヤクラ
 ト云フ岩窟ヲ一丈四方ホドニホリ内ニ牡丹カラク
 サヲ胡粉ニテ渥ク置上テ彩色シタリ窟中ニ石

塔アリ。實朝ノ塔ト云傳フ。東鑑ニハ。實朝ヲ勝
長壽院ノ傍ニ葬トアリ。後、人實朝ノ為ニ是ヲ作
タルカ。今按スルニ。當寺ノ開山并ニ行勇和尚共
ニ實朝ノ歸依僧也。又平政子共ニ二師ヲ信仰セ
ラレ。行勇ヲ戒師トシテ。實朝薨去ノ後。尼ニナリ
給ケレバ。實朝ノ塔。此寺ニ有事ハ。此縁ナルベシ。

歸雲洞 寺ノ西南ノ山ニアリ。

石切山 歸雲洞ノ南ナリ。山下ハ石切場ナリ。東

鑑ニ。龜谷ノ石切谷トアリ。

望夫石 石切山ノ上ニアリ。畠山六郎重保。由比

濱ニテ戰死ス。其婦此山ニ登。望見テ戀死ニス。終ニ
石ト化スト云傳。重保戰死ノ事。後ノ重保石塔ノ
下ニ記ス。按スルニ。望夫石ト云モノ。異國ニモ又本
朝ニモ。西國邊ノ海岸ニ往々ニアリ。程伊川云。望
夫石ハ。只是江山ヲ望テ。石人ノ形ノ如ナルモノア
リ。今天下凡、江邊ニ石ノ立者アレバ。皆呼テ望夫
石トス。爰ニアルモノモ此類ナリ。

觀音堂跡 石切山ノ東半腹ニアリ。今ハ堂ナシ。
元亨釋書ニ。宋佛源禪師。禪興寺ニ住スル時。夢
ニ觀音大士告テ曰。逢強則止レト。後十年。建長

寺ヨリ龜谷山ニ移ル。額ヲ見レハ金剛ノ字アリ。始テ聖識ヲ明ム。則チ西南ノ一巖ヲ鑿テ壽塔ヲ剋メ。補陀ノ像ヲ刻テ指方ニ酬フトアルハ。此觀音堂ナラン。

桂陰菴 覺知禪師。諱希一。號月山。嗣法玉山。

貞治五年六月十三日寐。木像アリ。

正隆菴 靈光禪師。諱慧堪。號大用。嗣法佛光。

悟本菴 佛智圓應禪師。諱巧安。號險崖。嗣法

佛源。元德三年七月廿三日寐。

積翠菴 通照禪師。諱慧雲。號寒潭。嗣法雲叟。

千光五世法孫也

右ノ四院今尚存

松鶴菴 宏光禪師。諱上照。號寂菴。千光四世法孫也

桂光菴 覺照禪師。諱德瓊。號林叟。嗣法大覺。

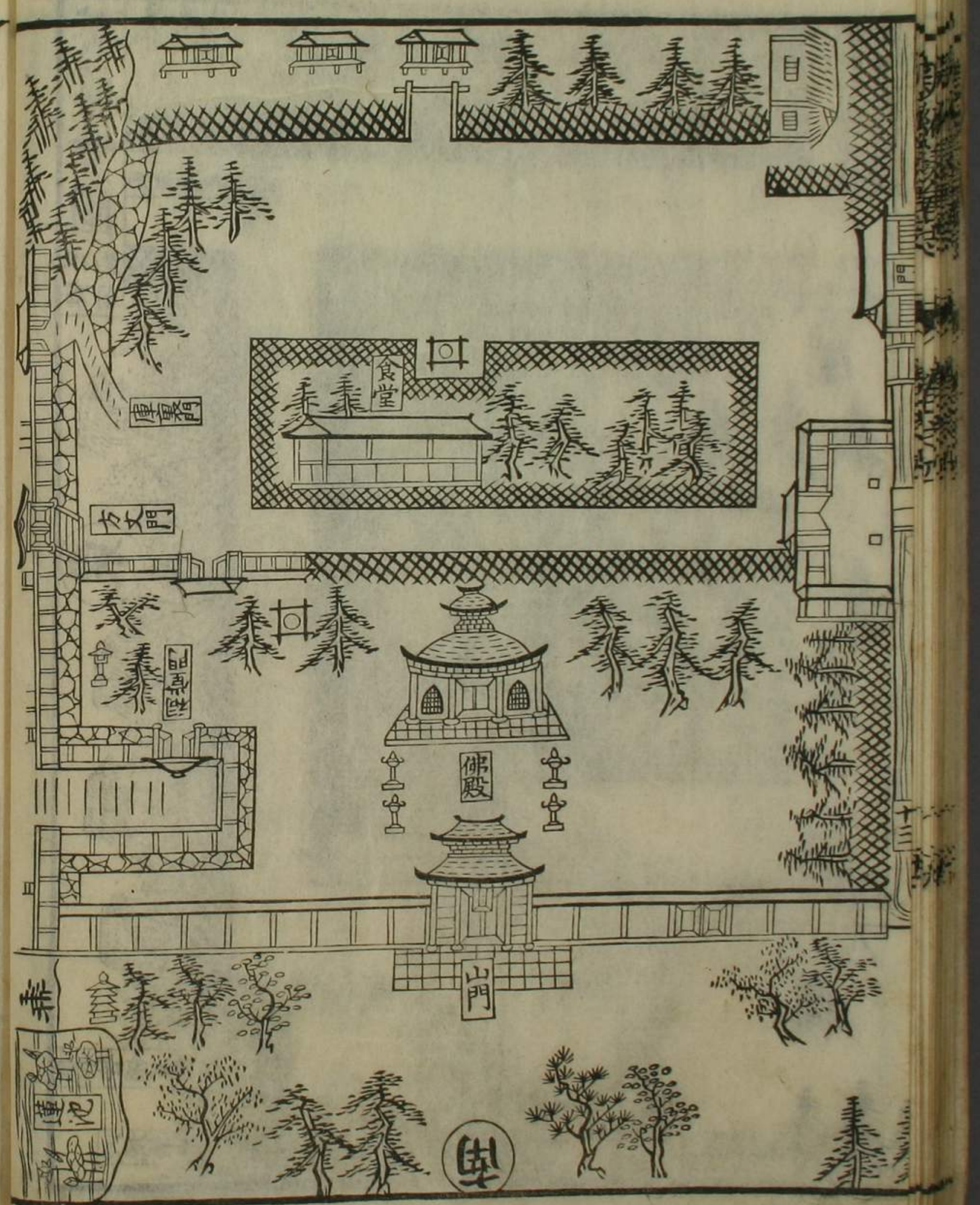
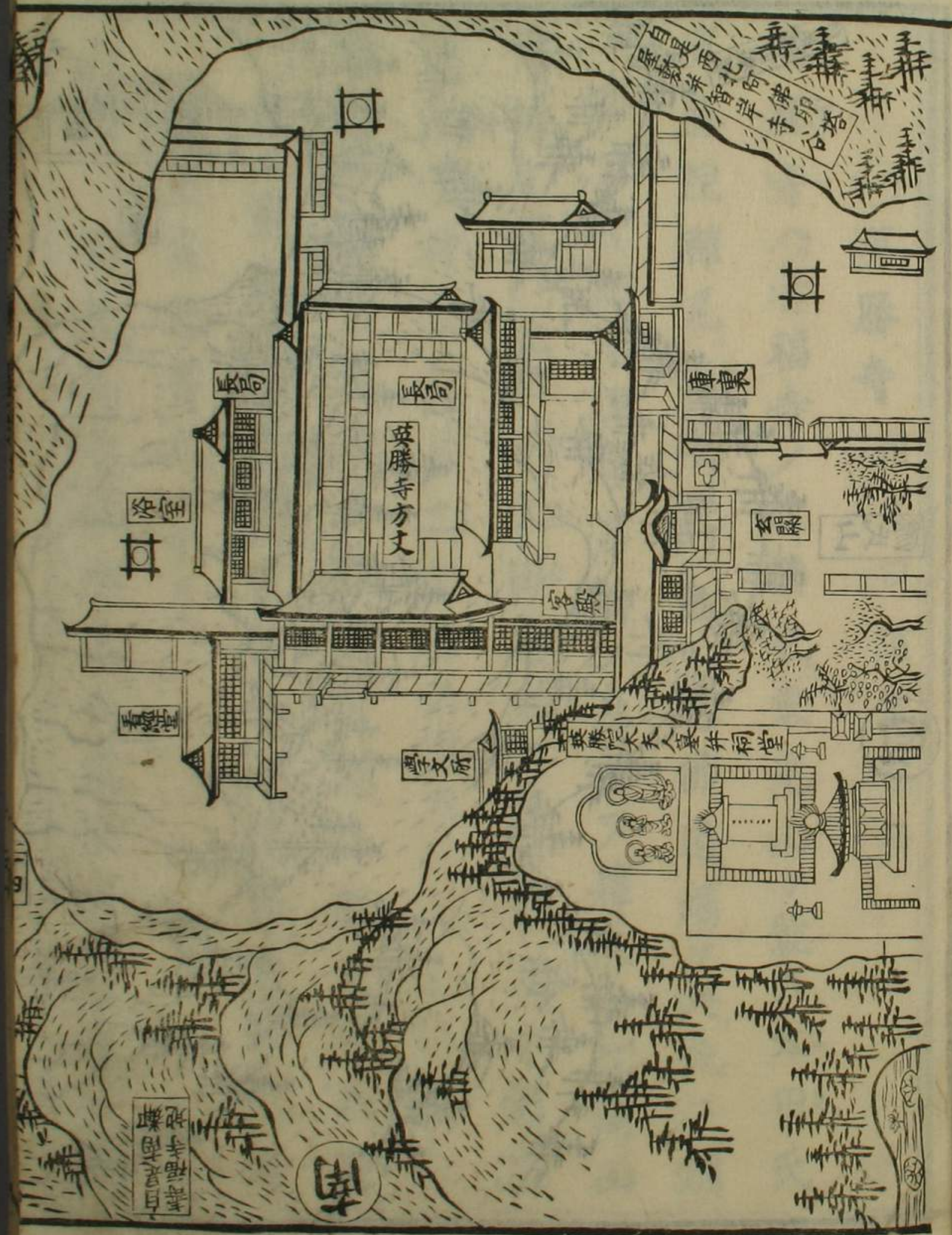
大澤菴 象光和尙。諱文峯。嗣法桃溪。

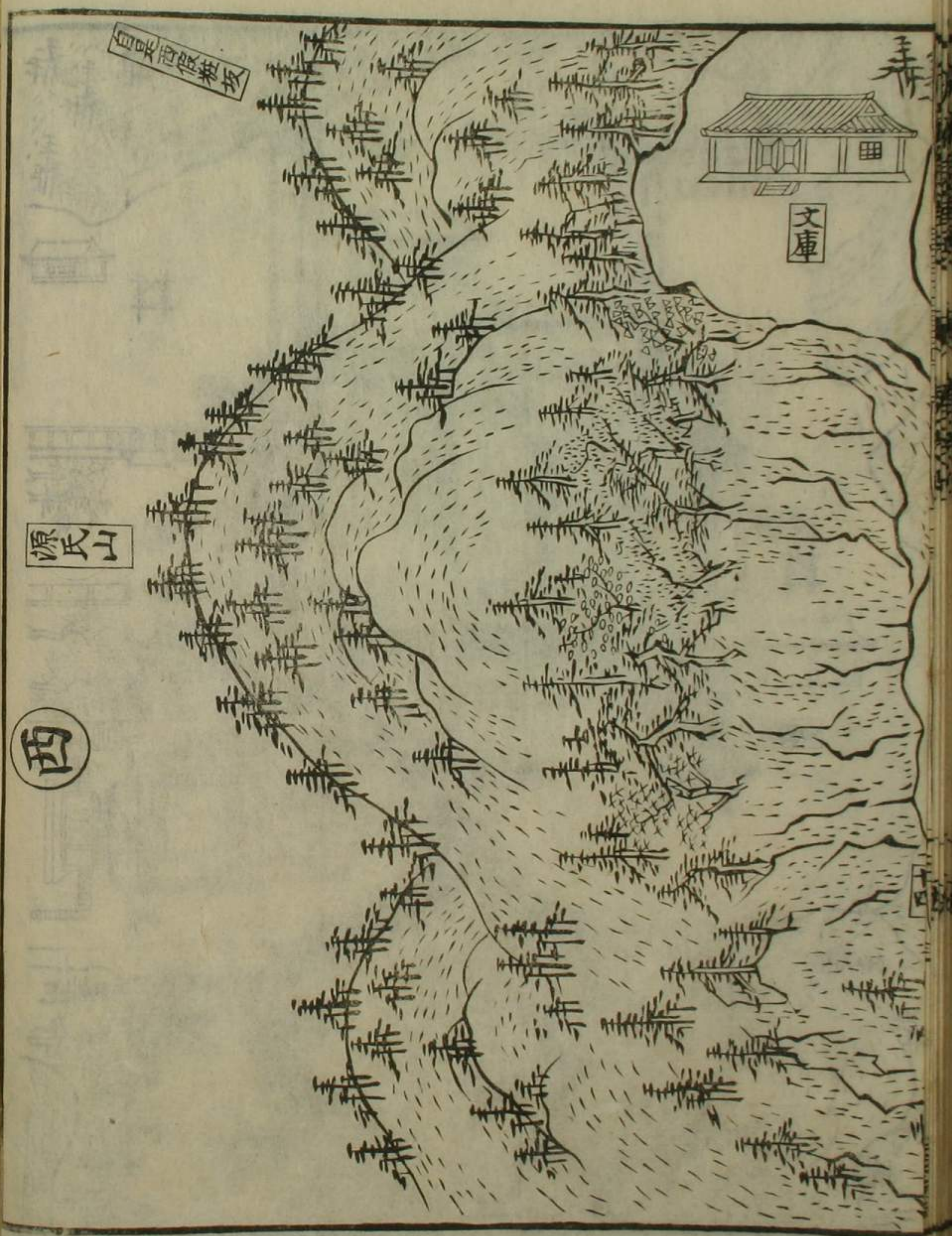
定光菴 廣覺禪師。諱文巧。號大拙。嗣法象外。

桃溪法孫也。

聯燈菴 足菴和尙。諱祖麟。嗣法桑田。大覺法

孫也。





○英勝寺

附太田道灌舊跡

英勝寺ハ壽福寺ノ北隣也。東光山ト號ス。太田氏
 英勝院禪尼。自著提ノ為ニ念佛道場ヲ此地ニ創
 入。水戸中納言源頼房卿ノ息女ヲ薙染セシメ開山
 住持トス。此地ハ本太田道灌ノ舊宅ナリ。寺領三
 浦池子村ニテ四百二十石ヲ附ス。
 總門額東光山。曼殊院良恕法親王筆也。裏
 書ニ寛永二十年四月十一日。無障金剛二品
 親王良恕書之トアリ。

山門額英勝寺。後水尾帝宸筆ナリ裏書ニ寛

永二十一年甲申年八月日臨寫之トアリ。

棟札

奉敬立。相州英勝寺山門。從四位下侍從源賴重朝臣。寬永二十癸未歲八月十六日。佛殿額。寶珠殿。良恕法親王筆。本尊。阿弥陀。運慶作。左右二善導法然ノ像アリ。

棟札

上棟相模國鎌倉扇谷英勝寺。寬永十二。采兆困敦十一月二十三日。太田禪尼英勝院。長譽清春建。住持玉峯清因。二品親王良純

書之

梁牌銘

寺名英勝山號東光煩惱利劍苦海慈航。寬永二十年八月日。正三位權中納言源朝臣賴房立。左方惟茲檀越。新開道場晨誦夜讀。云祈久長住持玉峯清因。右方鐘樓門ヲ入レハ右ニアリ。鐘銘アリ。

相陽鎌倉英勝寺鐘銘

扇谷靈區。英勝精廬。巧鑄法器。新脫鞞模。華樓直架。蒲牢高呼。聲來耳往。外圓中虛。漁嵐

成曉。湘烟向。晡。遍滿。忍界。透徹。迷盧。梵唄無
德。音不孤。令聞千歲。日居月諸。寬永二十
年。五月吉日。法印道春撰。治工。大河四郎左
衛門吉忠。

方丈 佛殿ヨリ西ニアリ。地形一段高シ。

寺寶

阿弥陀經 壹部。伏見帝宸筆。

天神名號 壹幅。後陽成帝宸筆。

天神畫像 壹幅。小野於通畫贊。贊八假名文字十リ。

兩界曼荼羅 壹幅。弘法筆。

阿弥陀畫像 壹幅。慧心筆。

三尊阿弥陀畫像 壹幅。慧心筆。

金泥曼荼羅 壹幅。慧心筆。

二十五菩薩畫像 壹幅。慧心筆。

稱讚淨土經 壹部。當麻中將姬筆。

繡梵字三尊 壹幅。當麻中將姬造。

源空自畫像 壹幅。

同證文裏書 壹幅。本願寺第七世真譽筆。

西明寺圓測仁王經疏 壹部。

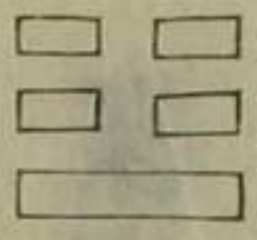
今禪尼開念佛三昧之道場。非獨乘其他力。本願而已。欲使諸善男女有信念者。悉皆往。生其功德。不易測也。禪尼自少事東照大權現。恭勤不怠。寵遇甚渥。嘗應命奉養黃門賴房卿。黃門以之為慈母。其恩義親愛之深。人皆稱之。禪尼復奉黃門之令。愛以養之。使追阿潘之迹。而住持此寺。嗚呼。殊勝妙顏者。如來之慈母也。韋提希者。淨土之願主也。然則禪尼。與殊勝妙顏。韋提希。異世同志。誠可喜也。其芳聲傳于後代。與道場永無絕矣。至若

安養不遠。如來現迎。而心境相通。身土不二。則之可以見。殊勝妙顏。韋提希。于今日歟。住持戒諱清因。道號玉峯。禪尼源姓。太田氏。法諱清春。雅號長譽。其院曰英勝。故號寺。寬永十三年仲冬二十三日。寺既成矣。事達台聽。翌年臘月下院。吉辰。賜相州三浦郡池子村若干戶。施入于寺。且免寺地稅并篁畝。禪尼拜命之。忝感戴有餘。黃門之共動喜色。欲令此盛舉垂于無窮。於是請余載其事。因書以應焉。寬永十五年春二月十八日。民部卿法

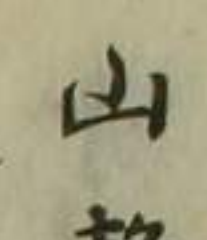
印道春謹記

已上

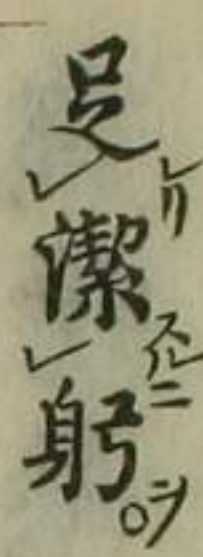
石盤 方丈ノ前ニアリ。澤菴宗彭銘ヲ作ル。其文如左。



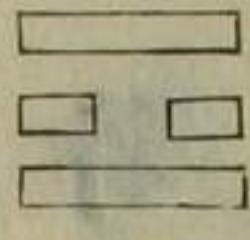
星拱北兮水朝東。前風動兮物相從。後



山靜兮人止東。一根清兮諸根融。以漱石兮

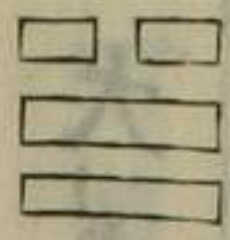


足潔躬。一陰生兮暗蒼穹。梅雨連兮客維艸。江



雲迷兮暮擁蓬。掛其象兮在午宮。石為陽兮

水湛中。

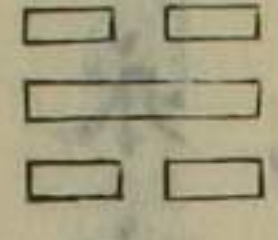


惟時秋兮山染楓。二陽沈兮一陰汎。上

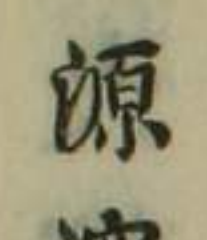


貯水兮奪化工。金風拂兮雲盡空。寒月涵兮

影如弓。



真不孤兮物盡蒙。一得五兮其數充。此



源深兮此流豐。水游至兮繞空峒。朔方化兮

于茲隆。

英勝院太夫人墓并祠堂 佛殿ノ西ニアリ。墓ノ

後ノ岩ニ三尊ヲ彫刻ス。石碑ノ表ニハ英勝院長

譽清春トアリ。裏ニハ墓誌アリ。弘文院林恕撰

ス。其文如左。

太夫人源姓太田氏諱勝父曰康資母藤氏
 遠山丹波守直景女也。太夫人笄歲始事東
 照大神君侍枕席被恩寵誕一女早夭神君
 愍其無賴命水戸侯賴房為其准母神君薨
 後薙髮為尼號英勝院時々拜謁台德公逮
 大猷公治世眷遇特加常侍營中談舊事寬
 永十一年六月賜鎌倉扇谷數百弓地建淨
 刹號英勝寺奉命養賴房女為比丘尼號玉
 峯清因住持此寺乃是太夫人高祖左衛門
 大夫道灌之舊蹤所謂源氏山也十五年十

一月賜三浦池子村地為寺田十八年秋太
 夫人寢疾十一月四日大猷公親臨問之時
 嗣君尚幼然御駕來視恩光之隆為母美談
 明年八月二十三日遂屬纊時年六十五大
 猷公哀惜賻儀鄭重其後依賴房請而大猷
 公執奏賜宸筆額扁寺且賜常紫衣宣旨可
 謂身後之榮施之不朽者也孝孫源光國立
 ○源氏山
 源氏山ハ英勝寺ノ境内西ノ方ノ高山也此山龜
 谷ノ中夾ナリ詞林採葉抄ニ龜谷ノ山ハ鎌倉ノ中

央第一ノ勝地也ト有ハ。此山ナリ。此東南ノ麓ハ龜
 谷山壽福寺ナリ。此山ヲ或ハ旗立山又御旗山トモ
 云フ。鎌倉九代記ニ源氏山ト申ハ。古ハ八幡太郎
 義家東國征伐ノ為ニ下リ給ヒ。鎌倉ニ打入テ。此山
 ニ旗ヲ立。終ニ強賊阿倍貞任宗任ヲホロボシ給ヘ
 バ。或ハ旗立山トモ名クトアリ。今ニ旗竿ノ跡トテア
 リ。又採葉抄ニハ。此山ヲ武庫山トアリ古老ノ云。武
 庫山ト云ハ。此山ノ古キ名ナリト云フ。義堂武庫山
 ノ詩アリ。詩中瘞甲兵ノ語。大臣山ノ故事ニ似々
 レドモ異ナリ。

武庫山

義堂

憶昔神人瘞甲兵。至今武庫有山名。峰如劍
 也。嶺如戟。好與君王鎮不平。

○阿佛卵塔跡

阿佛卵塔ノ跡ハ。英勝寺ノ境内北ノ方ニアリ。昔此
 處ニ阿佛カ卵塔有シト也。故ニ俗ニ阿佛卵塔屋
 敷トモ云フ。又極樂寺ノ境内ニ月影谷ト云フ所
 アリ。阿佛カ栖ケル地ナリ。阿佛ハ藤原為相ノ母
 ナリ。

○智岸寺谷

智岸寺谷ハ阿佛卵塔屋敷ノ西北ノ谷。英勝寺ノ
 境内ナリ。古ヘハ寺有ケレドモ頽敗セリ。近比マデ地
 藏堂ノミ有シガ。是モ今ハナシ。地藏ハ鶴岡ノ供僧
 正覺院ニアリ。是ヲドコモモ地藏ト名ク。相傳フ初メ
 堂守ノ僧アリ。貧窮ニジテ。佛餉ニ供スベキ物ナキ
 故ニ。此地ヲ遁レテ。他所ニ移テ居住セント思定。其
 夜ノ夢ニ。地藏枕本ニ現シテ。ドコモクトバカリ云
 テ。失ニケリ。彼僧此意ヲ悟テ。ドコモクトハ。何クモ
 同シ苦ノ世界ナリト云事ナルベシトテ。居ヲ不_レ移一
 生ヲ終リケルト也。

○泉谷 附泉井

泉谷ハ英勝寺ノ東北ノ谷也。東鑑ニ建長四年。五
 月廿六日。右兵衛督教定朝臣が泉谷ノ亭ヲ壞
 ツテ。御方違ノ本所トス_レアリ。是宗尊將軍ノ時
 也。御亭ノ跡。今_レ所不知。路端ニ井アリ。泉井ト云。清
 水涌出ナリ。鎌倉十井ノ一ナリ。

淨光明寺地圖



○淨光明寺

附網引地藏

東林寺跡

淨光明寺ハ泉谷ニアリ。泉谷山ト號ス。建長三年
 亥年。平長時ノ建、立ナリ。長時ノ法名專阿ト云。關
 山ハ真聖國師諱ハ真阿。東鑑ニ。文永二年。五月
 三日。故武州禪門。長時。忌景ノ佛事。泉谷新造ノ堂
 ニテ修ス。トアリ。此寺今真言天台禪律四宗兼學
 ニテ。泉涌寺ノ末寺也。空華集ニ淨光明寺ノ三
 智菴律師華嚴天台三論法相四宗ノ院ヲ創
 建ス。兼テ顯密ヲ學ス。最華嚴淨土ノ二宗ニ明也
 ナリ。寺領今四貫八百文アリ。

阿弥陀堂 堂塔頽破シテ。今此堂バカリアリ。本尊ハ阿弥陀ノ三尊。是ヲ上品上生ノ阿弥陀ト云。里俗寶冠ノ弥陀ト云。開山并ニ平長時ノ木像アリ。

寺寶

後醍醐帝綸旨 貳通。一通ハ。元弘三年十月五日。一通ハ。元弘三年十二月廿日トアリ。後小松帝官符宣 貳通。共ニ嘉慶三年二月トアリ。其一通ノ畧ニ云。當寺ハ平長時ノ本願。建長重光淵獻之經始。真阿和尚ノ權輿トアリ。

同口宣案 壹通。應永卅年九月廿四日ニ淨

光明寺ノ開山真阿ニ勅シテ。真聖國師ト賜フトアリ。

源尊氏證文 貳通。共ニ觀應三年トアリ。

源直義證文 三通。觀應二年トアリ。

源基氏證文 貳通。貞治三年トアリ。

源氏滿證文 壹通。亨德二年トアリ。

源滿兼證文 壹通。其文云ク。瑞泉寺。永安寺。

兩殿御遺骨一分事。所奉納當寺也。早令修追薦於万代之勤行。宜奉祈得脱於三明之

妙果之狀。如件。應永六年十月三日有瑞泉寺基氏永安寺氏漏。

源持氏證文 貳通。應永廿七年トアリ。

源義滿證文 壹通。應安七年トアリ。

上杉顯定證文 壹通。顯定ノ判アリ。花押數ニ

毛載タリ。

淨光明寺地圖 壹枚。地ノ界ニ如左花押アリ。誰人ト云コトヲ不知。

淨光明寺地圖花押



愛深像 壹軀。願行作。

千手觀音像 壹軀。作者不知。立像ナリ。

二十五條架梁 壹頂。願行上人ノ受持ナリ。

三千佛畫像 壹幅。弘法筆。

不動像 壹軀。座像ナリ。是ヲ八坂不動ト云フ。相

傳。淨藏貴所。八坂ノ塔ノ傾キタルヲ祈直セシ時

ノ本尊也。文覺上人。鎌倉ニ負來ルヲ。後ニ此寺

ニ安置スト。今按スルニ。淨藏貴所。塔ヲ祈ルハ天

曆年中ノ事ナリ。元亨釋書ニ見タリ。

八幡并弘法畫像 各壹幅。此兩像ヲ互ノ御影

八ト號ス。八幡ノ影ハ。弘法ノ筆。弘法ノ影ハ。八幡ノ筆ニテ。互ニ形ヲ寫スト云。傳フ。盞囊抄ニ云。神護寺ニ。八幡ノ御影アリ。是ハ大師昔シ東大寺ノ大門ニテ對面有テ相互ニ御影ヲ寫シ給ヘリ。神筆ノ影像ハ納冷房ニアリ。御筆ノ神影ハ初ヨリ高雄寺ニ安置セラレシヲ。近衛帝ノ御宇ニ。東大寺ノ鎮守ニ祝ヒ進セントテ。南都ヨリ頻ニ申シツク。又八幡ヨリ。去ル保延六年。正月廿三日ノ炎上ニ。醍醐天皇ノ勅定ニ依テ。敦實親王造作シ給ヒシ。僧俗ニ體ノ外殿ノ御神體燒失

セシ故ニ。社家ヨリ強ニ望ミ申ケレバ。鳥羽上皇キコシメシテ。不思議ノ重寶ナリトテ。鳥羽ノ勝光明院ノ寶藏ニ召納メラレシヲ。後鳥羽帝ノ御時。建久八年。文覺上人。修造ノ時。又申請テ返シ納メラルハト也。其大菩薩ノ御影ハ。僧形ニテ赤蓮華ニ坐シ。日輪ヲ戴テ。衲ノ袈裟ヲ掛テ。錫杖ヲ持シ給フト云。又八幡愚童訓ニモ見タリ。此ヲ文覺。鎌倉へ持來テ。此寺ニ納メタリト云。傳フ。八幡。弘法。年代懸隔セリ。然レドモ。或ハ夢ニ示現シ。或ハ幻ニ影ヲ見テ。皆神祕佛カナド云ヘル

ハ。浮屠氏ノ例ナリ。

以上

慈恩院 本堂ノ西ノ方ニアリ。地藏ノ立像ヲ安ス。是ヲ矢拾地藏ト云フ。相傳。源直義ノ守リ本尊ナリ。直義一戰ノ時分。矢種盡ケルニ。小僧一人走來テ。發捨タル矢ドモヲ拾ヒ。直義ニ捧ケル怪ク思ヒ。守リノ地藏ヲ見ケレバ。矢一筋錫杖ニ持添ケルトナリ。今モ錫杖ハ斡ナリ。又直義ノ位牌アリ。表ニ當院本願。贈正二位大休寺殿古山源公大禪定門神儀。裏ニ觀應元年。二月廿

六日トアリ。又大塔宮ノ牌モ有シガ。此牌ハ理智光寺ニアルベキ物也トテ。院主是ヲ送り遣シ。今彼寺ニアリ。

萃藏院 本堂ノ東ニアリ。願行ノ作ノ不動ヲ安ス。右ノ二院。共ニ智菴和尚ノ開基ナリ。智菴ハ真聖國師ノ法嗣ナリ。

玉泉院 本堂ノ西ニアリ。直義ノ證文アリ。康永三年八月八日トアリ。

綱引地藏 阿弥陀堂ノ後ノ山上。巖窟ノ内ニ地藏ノ石像アリ。相傳。昔シ由比濱ノ漁父。綱ニカケ

テ引上タリ。故ニ名クト也。像ノ背ニ窪キ所アリ。潮汐候ニ從テ増減スト云。或云藤原為相ノ建、立ナリト。昔ニ文字アリ。供養導師。性仙長老。正和元子年十一月日。施主真覺トアリ。性仙ハ淨光明寺ノ前住乎。又圓覺寺鐘ノ銘ニ寺ノ頭首ノ中ニ。性仙ト云名見タリ。此人歟。時代モ相應セリ。

東林寺跡 淨光明寺ノ向ニアリ。開山、真聖國師。昔ニ律宗ノ寺ニテ。淨光明寺ト共ニ盛シナリ。尊氏ノ證文壹通。觀應三年トアリ。淨光明寺

ノ寶物ト成。此地今ハ武士屋敷トナルナリ。

○相馬天王祠

相馬、天王祠ハ網引地藏ノ山ノ西麓。岩窟ノ内ニアリ。相馬次郎師常カ祠ナリ。本師常カ屋敷ハ巽ノ荒神ノ邊ニアリテ。天王ニミツ、テ。叢祠ヲ立置シ。後ニ此處ニ移ストナリ。東鑑ニ元久二年十一月十五日。相馬次郎師常卒ス。年六十七。端坐合掌。決定往生。是念佛ノ行者也。結縁トシテ。緇素集リ拜ストアリ。

○藤原為相石塔 附忍性石塔

藤原為相石塔ハ網引地藏ノ後ノ山嶺ニアリ。藤谷ノ峯也。為相ハ為家遺跡ノ爭論ニテ。母阿佛ト鎌倉へ訟へニ下リ。二人共ニ鎌倉ニテ終ル。事ハ十六夜日記ニ見タリ。此東峯ヲ越テ。多寶寺谷ト云所アリ。寺ハナシ。大ナル五輪アリ。文字ナシ。忍性ノ塔ト云傳フ。爰モ泉谷ノ内ナリ。

○藤谷

藤谷ハ網引地藏ノ後。藤原為相石塔ノ下。西北ノ谷也。為相鎌倉へ下リシ時。暫ク栖タリシ跡也。故ニ藤谷ト云フト也。藤谷百首トテ。為相ノ歌アリ。令

公家ニ藤タニノ稱號アルハ。為相ヨリ始ト云リ。初メハ藤カヤツト稱ス。後勅定ニテ。藤ガ谷トハ言葉長シ。藤タニト稱スベシト也。

○扇谷 附扇井 飯盛山 大友屋敷

扇谷ハ龜谷坂ヲ越テ。南ノ方。西北ハ海藏寺。東南ハ華光院。上杉定政ノ舊宅。英勝寺ノ地ヲ扇谷ト云。龜谷ノ内ナリ。今里人扇谷トバカリ云。時ハ藤谷ノ前。英勝寺ノ裏門前ヲ。扇谷ト云。故ニ爰ニ出ス。太平記ニ天狗堂ト。扇谷ニ軍アリト有。又此所ニ飯盛山ト云アリ。山根ニ岩ヲ扇地紙ノ形ニ鑿。内ヨリ

清水湧^キ出^ツ。扇井^ノ名^ク。鎌倉十井ノ一^ツ也。鎌倉年中行事ニ。源成氏^チ。六月一日。飯盛山ノ富士參詣ノ事アリ。此^ノ所ニハ富士権現ナシ。公方屋敷ノ南^ニ。飯盛山ナリ。異山同名ナリ。今此飯盛山ノ前ノ畠ヲ。大友屋敷^キト云。中岩和尚自歷譜ニ。大友吏部乃祖ノ墳。藤谷ニ請テ住セシムトアレバ。此山藤谷ノ内ナレハ。藤谷ニ昔大友某^モノ菩提^ノ所^ニ有テ。中岩住持シタル也。此^ノ所ハ大友ノ舊宅ト見^タリ。藤谷ノ西ナリ。東鑑ニハ。扇谷ハ不見。

○梅立寺 附熱田社

梅立寺ハ海藏寺へ行^キバ右ナリ。江戸大乘寺ノ末寺也。寛永年中ニ。不受不施ノ僧建立ス。其後ノ住僧。國法ヲ懼^レテ。新義ノ悲田ト號シ。寺ヲ藥王寺ト改^メム。昔此地ニ。夜光寺ト云寺有シト也。又山ニ熱田社アリ。寛文年中ニ。金像ノ神體ヲ掘^リ出シタリトテ今ニアリ。

○法泉寺谷

法泉寺谷ハ御前谷ノ東向ノ谷ナリ。皆田畠ナリ。昔此地ニ。竹園山法泉寺ト云寺アリ。關東十刹内ナリ。開山本覺禪師。諱ハ素安。號ス^ル堂。建長寺

寶珠菴鼻祖十リ。今寺八十ケレトモ。五山西堂ノ公帖ニ。法泉寺住持職之事トノスルアリ。此寺ノ鐘今光明寺ニアリ。清拙ノ銘十リ。其文如左。

竹園山法泉禪寺鐘銘

鐘器之宏音韻高遠發上々樾者也。建長首座。為當寺住持了堂素安禪師。捐已貲以鑄之。與寺相為永久。金山清拙正澄遂為之銘。曰。山竹園寺法泉系西來葉再傳禮樂興鐘惟先命工。僅掌範埏液金銅聲注川。大器成。箕簾懸杵洪撞音遐宣。司夜且令天人息輪。

苦開定禪心聞洞十虛圓。咬七條唱樾緣鏗。月霜到客船。梵刹隆檀壽延國永安。君萬年。大歲庚午。元德二年。三月二日。大工山城權守物部法名道光。

○御前谷 附尼屋敷

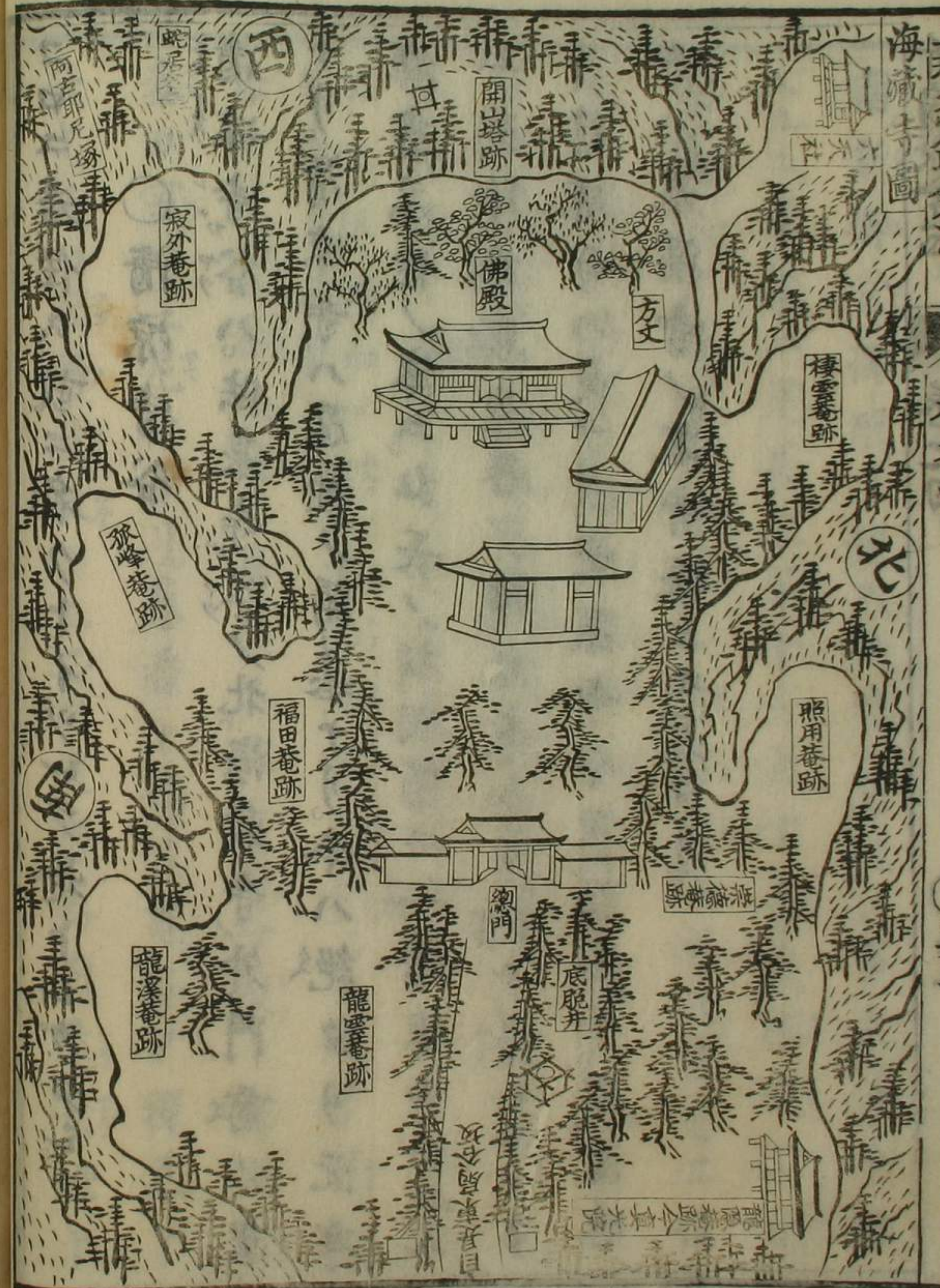
御前谷ハ。智岸寺谷ノ西ナリ。此前ノ并ヲ尼屋敷ト云。或云。御前谷ニ屋敷。二所共ニ尼御前ノ屋敷ニテ一所ナルヲ。土俗誤テ二ツニ分ツ。尼御前ト云ハ。二位。尼平。政子也。政子ハ大御所トテ。始ハ頼朝屋敷ニ居住。後ニ勝長壽院ノ奥ニ。伽藍并ニ御亭ヲ立。

南、新御堂ニシ御所ミミト號ス。此地ニ居住ノ事未考、今按ズルニ、東鑑ニ、建長三年十一月十二日、禪定ニ二位家龜ケ谷ノ新造ノ御亭ニ御移徙ニ有。此禪定二位家ハ、賴嗣將軍ノ母ニ棟御方ナリ。龜谷ニ居住セラル。此二位ヲ政子ト訛歟。或云、鶴岡ノ古文書ニ、龜谷、禪尼ト書ルアリ。是ハ上野國淵名與一實秀或云。天野、和泉、前司、政景カ女ニテ、北條實泰室。越後守實時母ナリ。實泰此所ニ居住ス。故ニ龜谷殿ト號ス。實泰カ室。後ニ尼トナリ。慈香ト號ス。龜谷ノ禪尼ト云ト。又ハ天野屋敷トモ云フ。天野藤内遠景此ト

コロニ居住ス。故ニ名クト。イツレヲ是トシガタシ。

○清凉寺谷

清凉寺谷ハ、法泉寺谷ノ北、海藏寺外門前ノ東ナリ。清凉寺ハ忍性ノ開基ナリ。今ハ絶タリ。元亨釋書、忍性ノ傳ニ、弘長ノ初、相陽ニ入。清凉寺ニ止ル。平副帥時頼、道譽ヲ郷。光泉寺ヲ創テ居シムトアリ。清凉寺ハ是ナリ。光泉寺今舊跡不分明。清凉寺ハ、泉涌寺ノ末寺、帳ニモ見タリ。



○海藏寺 附底脱井

海藏寺ハ扇谷山下號ス。此地マテ扇谷ノ内ナリ。開山ハ源翁禪師ナリ。源翁初メハ曹洞宗ナリ。後ニ大覺禪師ニ嗣法シテ。臨濟派トナル。昔ハ別山ナリ。天正ノ比ヨリ建長寺ノ塔頭ニ屬ス。建長寺領内一貫二百文附ス。土人此邊ヲ會下谷トモ云ナリ。

底脱井 總門ノ外。右手ノ方ニアリ。相傳フ昔ニ上杉家ノ尼參禪シテ。此井水ヲ汲テ投棧ス。歌アリ。賤ノ女ガ戴ク桶ノ底ヌケテ。ヒタ身ニカ、ル有明ノ月。此因縁ニ依テ。底脱井ト云傳フトナリ。

按スルニ城陸奥守平泰盛カ女。金澤越後守平顯時カ室トナル。後ニ比丘尼トナリ。無著ト號ス。法名如大ト云。佛光禪師ニ參シテ悟徹ス。投袂ノ和歌アリ。チヨノウガイタバクヲケノソコヌケテ。水タマラ子バ。月モヤトラスト云。チヨノウハ。無著ガヲサナ名也。此底脱井ノ事。無著ガ事ヲアママリ傳ヘタルカ。上杉家ノ尼。何人ト云事ヲヒラス。

總門 昔ハ此所ニ山門アリシトナリ。

佛殿 本尊藥師。是ヲ啼藥師ト云フ。相傳フ昔

此山ノ土中ニ。毎夜小兒ノ啼音シケルヲ。源翁怪シク思ヒ。其處ヲ見ルニ小墓アリ。金色ノ光ヲ放チ。異馨四方ニ薰ス。立寄テ袈裟ヲ脱。墓ニオホハ啼音ヤミケリ。夜明テ。此墓ヲ掘テミケルニ。藥師ノ木像。頭面ノミアリ。少モ不朽シテ鮮カナリ。則チ

藥師ノ像ヲ刻ミ。其腹中ニ收メ置タリ。故ニ里俗啼藥師ト云ナリ。

鐘樓跡 當寺ノ鐘ハ。今西來菴ニアリ。其銘ニ。大檀那常繼トアリ。常繼ハ上杉彈正少弼氏定カ法名ナリ。氏定ハ。禪秀亂ノ時。藤澤道場ニテ。應永卅三年。十月八日。自害。普恩院常繼仙嚴ト號ス。當寺ノ檀那ナリト云。鐘銘如左。

海藏寺鐘銘

相州。扇谷山海藏寺。常住鑄鐘。勸進。聖正南上座。大檀那沙弥常繼。應永念二年十一月

念二日。

寺寶

五部大乘經 貳拾函筆者不知。

二十五條袈裟 壹頂開山ノ袈裟ナリ。裏ニ書付

アリ。佛起禪菴空外叟ト七字ヲ朱ニテ書。下ニ花

押アリ墨ニテ書。空外ハ開山ノ號ナリ。武州多東郡

天士淨底居士檀那也。至德乙丑二月念五日ト

升三字ヲ朱ニテ書。下ニ書之トアリ。此二字ハ墨ト

リ。按スルニ此袈裟開山ノ袈裟ニテ書付ハ以後ニシタリト

三ハタリ。開山ノ傳ニ私安三年ニ寂ストアリ。至德ハ後也。

開山自贊畫像 壹幅贊文字滅シテ真字識字

ナド。カスカニ見ユルナリ。像ハ鮮カナリ。

開山源翁禪師傳 壹卷其文如左

師諱心昭號空外源翁其謚號也。母姓源越

之前州荻村人也。初生。日空中有聲曰。此兒

為最尊。幼投陸上寺。為沙弥。翁性敏秀。七歲

誦俱舍論。十有六。藉深受具。此時涉獵釋墳

畧。一千卷。十有八。謁叡山道元弟子於諸嶽。參禪

門宗。究洞上旨。會中推而為傑也。初康治帝

在位。日宮妖嬪發。久壽間。一夕宮中之宴。月

卿雲客。皆列侍。管絃數奏。時及更後。殿閣大震。銀燭遽滅。帝座下有寵妃玉藻。前放光於身。大照殿階。帝於是不豫。安部易洗。卜之曰。是玉藻所為也。忽化狐。逃東國。帝詔三浦介義明。千葉介常胤。上總權介廣常。毆其狐於下野州。那須野。義明射而殺之。爾後百年餘。狐靈為石。世俗曰殺生石。觸其石。則鳥獸人民皆死。民之苦甚。時有僧大徹。我山者。欲止其石。怪而不能為。寶治帝後漢詔翁曰。師往野州。熄此怪。翁到石之左右。白骨髑髏山積。

翁拈破竈墮。椽緣曰。汝既見石靈。何處來。性向何收。題偈曰。法塵一端的。底本來面目。未曾藏現。成公案。大難事。異類中行。任度量。攀拄杖。卓一下。石忽破碎。其夜一女子現。粧麗甚。嚴謝禮曰。嫗得淨戒。生天言訖。烟沒。自此翁聲名籍甚。於洛鄙。鎌倉副元帥平時賴。聞翁之道。驗本傳曰。鎌倉殿蓋其時賴也。非將軍宗尊。以奧州會津利根川庄為翁。饋粥之資。本傳曰。布施時。建長年間也。翁復西游藝州。詣嚴島神祠。海波大怒。船不前。須臾風靜。潮落。龍現波間。翁因

授三歸五戒。少為波上浮孟盛。以黃金翁笑而曰。龍謝我耶。我莫納此物。我山會陽。示現寺。乏塩。願以汝力。涌塩井於我山。今示現塩井是也。初會陽。示現寺。密宗之道場也。翁偶遊此愛山中曠間。喬松颯々。不忍去。因有投老於此之志。有一老叟拜謝翁前。翁問曰。汝何人。叟曰。吾此山護法神也。願禪師住此度衆。翁曰。密徒滿山。何許吾住乎。老叟曰。滿山僧徒。破戒邪行。吾嫌此穢久之。然而乏明眼師。幸辱師足跡。印此。吾約師。師勿忘。叟忽沒

地。翁怪之。未幾。示現寺。回祿發。有物如車輪。光明燦々。飛空中。山木破折。石岩震動。寺僧恐駭。而皆離散。餘密徒無孑遺。時建長七年。乙卯。四月十四日。郡劄請翁。翁感神約。入而住焉。海衆一千指。雲堂禪規嚴如也。寺有洞窟。喬木托根。一夕雷雨。火起。其木為燼。其下大穿。溫泉涌出。神託人曰。此山無溫泉。是以奉師之沐浴。其靈異頗如斯。示現寺。舊曰慈眼寺。有千手觀音像也。護法山。舊五峯山。以五峯森列也。翁改為今之字也。示現。蓋以山

神示現靈驗也。護法取山神守護正法。撞邑
 有一女家極貧。然慕翁之道化。翁憐其法名
 女感謝。餘脫一衣為襯。自裸形而歸。路得錢
 一孔。從此女家日富財豐也。後女薙髮誅茅
 於山中。為衆洗衣針縫。今之洗衣菴是也。河
 州刺史平盛次。世稱太郎丸者也。欽歎翁道。
 寄岩崎莊若干畝。為寺產。住示現殆二十六
 年。弘安三年庚辰春正月七日。泊然而寂。門
 人相聚埋骨石於山之西南隅。扁塔曰大寂。
 建治帝勅謚源翁禪師。嗣法弟子齡山延等

十有餘人。翁為人膽量廓如。面貌豐偉。長眉
 秀目。門下多得人。晚掛錫於建長。入大覺之
 室。覺示以臨濟毒手。翁知見一時消。因建海
 藏寺於扇谷。居之。時參大覺之室云。又千
 手經。讀蒙記。殺生石ノ記ヲ載タリ。其畧ニ云。明德
 元年。鎌倉ヨリ。能州總持寺大徹沙門ニ命レテ殺
 生石ノ元ニ行テ。彼七魂ヲ救ハシム。時ニ源翁ハ治病ノ
 タメニ。奈須ノ温泉ニ到ル次テ。殺生石ヲ打破スト。ア
 リ。按スルニ。源翁禪師。大覺禪師ニ嗣法スト云事。源
 翁傳ニ載。寺僧モ云傳ル事ナレハ。明德元年ノ説ハ誤

リナラシ。源翁禪師ハ弘安三年ニ寂ストアリ。以上

開山塔跡 佛起菴ト號ス。今ハ七タリ。方丈ノ後ノ山上ニ跡アリ。

辨才天祠 方丈ノ西ノ方。岩窟ニアリ。兩寶殿ト號ス。道智塚 蛇居谷ノ西南ニアリ。或ハ阿古耶尼ノ塚トモ云フ。共ニ未考。

寂外菴跡 寺ノ西南ニアリ。寂外ハ當寺ノ第二世ニテ源翁ノ法嗣也。木像。寺ニ有。此邊ヲ寂外谷ト云フ。又ハ蛇居谷ト云フ。賴朝。此ノ處ヲ切通サントテ。

半ハ掘ケルニ。蛇ノスム石有テ。血流ル故ニ止ケルト也。因之蛇居谷ト云ト也。其跡今アリ。其外。樓雲菴。照用菴。崇徳菴。翠藤菴。龍雲菴。龍溪菴。福田菴。龍隱菴等ノ塔頭ノ跡アリ。

○山王堂谷

山王堂谷ハ源氏山ノ西北ニアリ。東鑑ニ。寛元三年。三月十九日。大納言家。日光ノ別當犬懸谷ノ坊ヨリ。龜谷ノ山王ノ寶前ニ御參トアリ。昔ハ山王堂有ケルトナリ。其跡今畠也。又名越ニモ山王堂アリ。

○景清籠

景清籠ハ。扇谷ヨリ假粧坂へ登ル道ノ端。左ニ大巖窟アリ。惡七兵衛景清籠也。或云。景清ハ鎌倉へ不下。可下トノ支度ノ為ニ作りタルナラシト。今按スルニ。長門本平家物語ニ。建久六年。三月十三日。大佛供養アリ。于時賴朝在京。上總惡七兵衛景清鎌倉殿へ降人ニ參ケレバ。和田左衛門尉義盛ニ預ラル。昔平家ニ候セシ様ニ。少シモ口ヘラス。義盛ニ所ヲモ不置。一座ヲセメテ。盃先ニ取或ハ縁ノキハニ馬引寄ノリナドレケレバ。モテアツカヒテ。他人ニ預サセ給ヘト申ケレバ。八田右衛門尉知家ニ預ケラル。後ニ八大佛供養ノ日ヲ數ヘテ。同七年。三月七日ニテ有ケ

ルニ湯水ヲ止テ終ニ死ニケルトアリ。東鑑ニ。賴朝卿。建久六年。二月十四日。御上洛有テ。同年。七月八日。鎌倉ニ著御トアリ。時ニ義盛知家モ供奉ス。シカレバ景清カ死去。建久七年トアレバ鎌倉ニテ死タル事明カナリ。且景清カ女ヲ。龜谷ノ長ニ預ケシト云傳フ。其塚今巽荒神ノ後ニアリ。彼是考ルニ。此籠ニテ死タル歟。

○播磨屋敷

播磨屋敷ハ。景清籠ノ北ノ方ヲ云フ。今ハ畠トス。里老ノ云。播磨守某カ屋敷ナリト。未詳按スルニ。高播磨守師冬源基氏ノ執事ニテ甚權威アリ。此人ノ

舊宅カ。

○梅谷 附綴喜里

梅谷ハ。假粧坂ノ下ノ北谷ナリ。此邊ヲ綴喜里ト云。夫木集ニ。綴喜原ヲ相模ノ名所トシテ。家隆ノ歌アリ。誰カリニ。ツバキノ原ノ夕霞。烟モ見ヘズ宿ハワカマシト。此地ヲ詠ルヤラシ。

○武田屋敷

武田屋敷ハ。梅谷ノ少シ南方也。今ハ畠トス。武田信光ガ舊宅歟



○假粧坂

假粧ハカマシ或、作氣生ケイセイ坂サカハ、扇谷ウチノカヨリ西ノ方ヘ行坂ユキサカナリ。往

還ノ道ナリ。相傳、昔シ平家ノ大將ノ首ヲケシヤウシテ、

實、檢シタル地ナリ。故ニ名ク。或云、古ヘ遊、女ノ往、居セシ

故ニ名クトモ云ト。曾我物語ニ、假粧坂ノ麓ニ曾我、五

郎時宗カ通シ遊、女アリ。梶原源太景季モ、此

女ニ通テ歌ナト詠シケルトナシ。時宗カ歌モアリ。東

鑑ニハ假粧坂不見、太平記ニ新田義貞、五十萬七

千餘騎、假粧坂ヨリ寄スルトアリ。又鎌倉大草子

ニ、禪秀亂ノ時、持氏方ヨリ、氣生坂ヘハ、三浦相模ノ

人、くヲ差ムケラルトアリ。此時持氏佐介谷ニ居ラ
レタリ。

○六本松

六本松ハ、假粧坂ノ上ニ二本アル松ナリ。古ヘハ六本

アリツル歟。里人云、駿河次郎清重、此處ニ登テ鎌倉

中ヲ見オロシタリト。上杉禪秀記ニ、源滿隆ノ兵、共

拾萬騎ニテ、六本松ニ押寄スル。上杉禪正、少弐氏

定、扇谷ヨリ出向テ、爰ヲ先途ト防戰ケリトアリ。

○葛原岡

葛原岡ハ、假粧坂ヲ越テ、北ノ野ヲ云ナリ。昔相模

入道。右少辨藤原俊基ヲ害セシ地ナリ。太平記ニ。俊基ハ殊更謀叛ノ張本ナレバ。近日ニ鎌倉中ニテ。斬奉ルベシトブ定ケル。サテ俊基已ニ張輿ニ乘ラレテ。假粧坂へ出ツ。爰ニテ工藤二郎左衛門請取テ。葛原岡ニ大幕引テ。敷皮ノ上ニ坐シ給ヘリ。俊基疊紙ヲ取出シ。辭母頌ヲ書給フ。古來一句。無死無生。萬里雲盡。長江水清。筆ヲ閣バ首ヲ打トアリ。神明鏡ニ。元徳元年。俊基又關東へ召下サレ葛原ニテ。五月十日ニ。誅セラレケルニ。カクナン。秋ヲマタテ。葛原ハラニ消ル身ノ。露ノ恨ミヤ母ニ殘ルラントアリ。鎌倉

九代記ニ。管領持氏執事上杉憲實が家老長尾尾張守入道芳傳ニ。葛原岡ニテ行逢終ニ芳傳が為ニ生捕ルト有ハ。此所ナリ。

○梶原村

梶原村ハ。葛原岡ヨリ西方。十四五町許行ナリ。里老云。梶原平三景時カ舊地也ト。此所ニ鎌倉権五郎景政カ宮アリ。長谷ニアル御靈宮ノ本也ト云フ。鎌倉系圖ヲ考ルニ。景政景時同姓一族ナリ。景政昔此邊ニ居住シタルユヘ。其宮ヲ爰ニ立タルナリ。景時モ此所ニ住シタルユヘ。梶原ヲ氏トスルカ。景政ハ。

鎌倉ヲ氏トス。景時カゲトキが舊宅ハ。五大堂ノ北キタ。離山リザンヲモ云也。共ニ景時カゲトキが舊跡ナルベシ。

新編鎌倉志卷之四

新編鎌倉志卷之五目錄

今小路 附勝橋

鍛冶正宗屋敷跡

佛師運慶屋敷跡

巽荒神

人丸塚

尊氏屋敷

興禪寺

無量寺谷

法住寺谷

裁許橋

佐介谷

附御所入
稻荷社

國清寺跡
蓮華寺跡
隱里
錢洗水
藥師堂跡

天狗堂

千葉屋敷

諏訪屋敷

七觀音谷

飢渴畠

佐佐目谷

附經時墓

塔辻

藤九郎盛長屋敷

甘繩明神

盛久頭座

稻瀨河

光則寺

附宿屋光則舊跡

大佛

附切通

御輿嶽

常磐里

附常磐御所跡

長谷觀音堂

御靈宮

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 八郎, 松村, 伯胤, 父考, 訂, 力石, 忠一, 叔貫, 參補）

新編鎌倉志卷之五

河井恒久友水父纂述

松村清之伯胤父考訂

力石忠一叔貫 參補

○今小路 附勝橋

今小路ハ壽福寺ノ前ニ石橋アリ。勝橋ト云。鎌倉十橋ノ一ナリ。此ヨリ南ヲ今小路ト云。巽荒神ノ邊ヨリ南長谷マデノ間ハ長谷小路ト云ナリ。

○鍛冶正宗屋敷跡

鍛冶正宗屋敷跡ハ勝橋ノ南ノ町西頰也。今ハ町

屋十ナリ。正宗ハ。行光カ子ナリ。行光。貞應ノ比。鎌倉ニ来リ。爰ニ住スト云フ。今モ此所ニ刃ノ稻荷ト云小祠アリ。正宗ガマツリタル神ナリト云傳フ。

○佛師運慶屋敷跡

佛師運慶屋敷跡ハ。正宗屋敷ノ西ナリ。佛師運慶ガ宅。地下云傳フ。東寶記ニ。運慶。東寺ノ大佛師トナルトアリ。湛慶。康運。康辨。康勝。運賀。運助ハ運慶ガ子ナリ。東鑑ニモ。運慶往々出タリ。

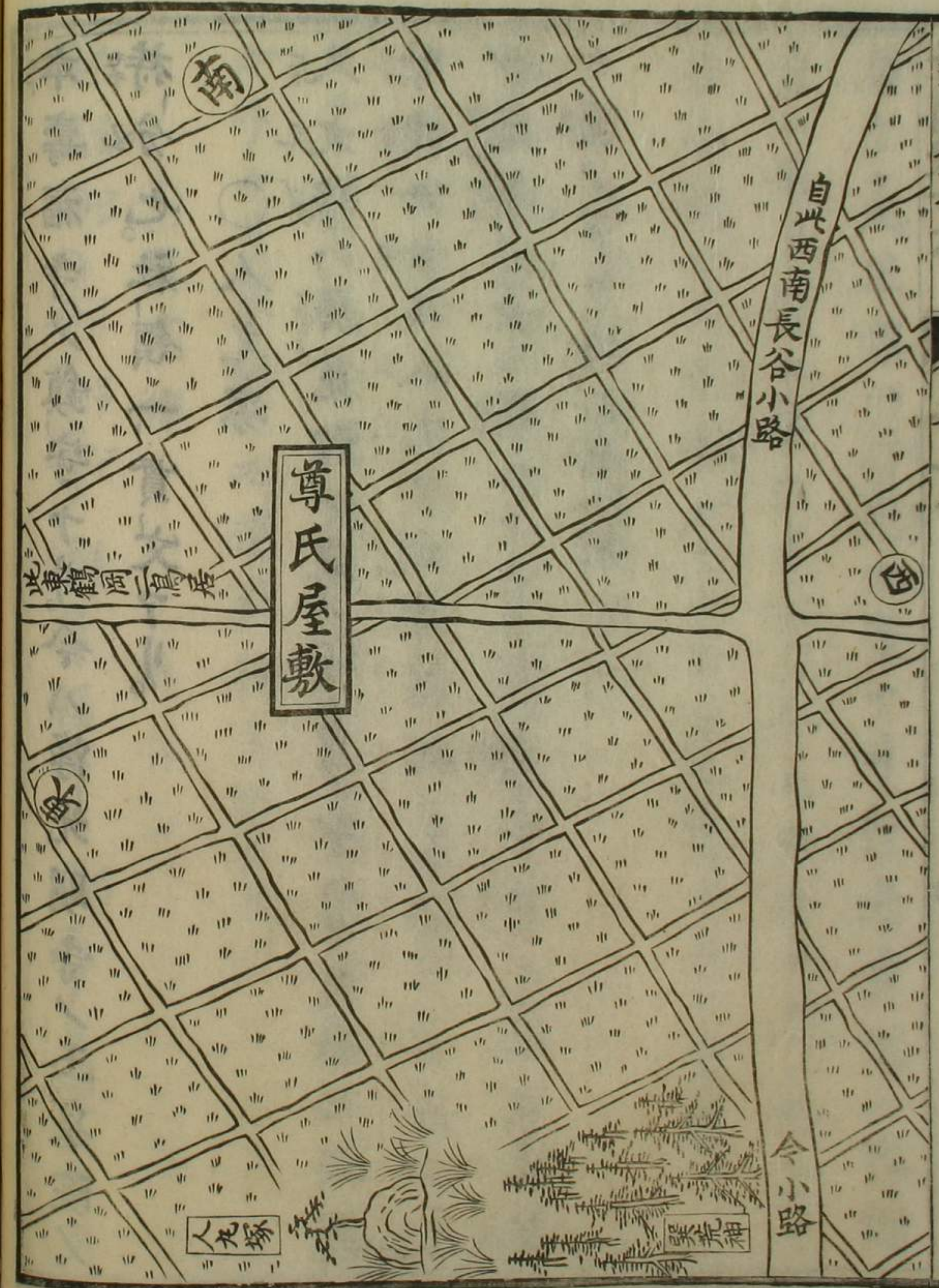
○異荒神

異荒神ハ。今小路ノ南。壽福寺ノ異ニアリ。故ニ名ク。

本壽福寺ノ鎮守ナリ。今ハ淨光明寺ノ玉泉院ノ持分也。社領一貫文アリ。

○人丸塚

人丸塚ハ。異荒神ノ東ノ方。畠ノ中ニアリ。惡七兵衛景清カ女メ。人丸ト云者。墓也ト云傳フ。景清カ女ヲ龜谷ノ長ニ預シトナリ。此邊龜谷ノ内ナリ。景清ガ籠ノ下ト。照シ見ヘシ。



○尊氏屋敷

尊氏屋敷ハ巽荒神ノ東南ノ畝ヲ云ナリ。今按ズルニ東鑑ニ仁治四年正月九日足利大夫判官龜谷ノ亭トアレバ此ハ尊氏先祖ノ屋敷トミヘタリ。此邊龜谷ノ内ナリ。大藏公方屋敷モ尊氏代ノ宅トモナリ。又長壽寺ノ南鄰ニモ尊氏屋敷アリ。三所トモニ尊氏ノ舊宅ナラン。

○興禪寺

興禪寺ハ壽福寺ノ南ニアリ汾陽山ト號ス。朝倉筑後守ガ子甚十郎先考ノ為ニ建立ス。開山ハ奥州

松島ノ雲居諱希膺ナリ。...

山門 額汾陽山ナリ。明僧黃檗山本菴筆ナリ。

佛殿 本尊釋迦阿難迦葉。

鐘樓 鐘銘アリ

鎌倉縣畔汾陽山之檀越。日下部姓。朝倉氏正世公。與慈母保福院共計為先考玄英居士。建立善提道場。號為興禪禪院。今也賢娣慈明院殿。鑄華鯨以被寄附之。願者以此修善功力存者福樂壽命長遠。亡者離苦受安養樂。九族親戚。三界精靈。俱蒙悔過普潤。

利益盡出迷衢。同登覺場。銘曰。聲々中規韻韻。應儀報寢興。刻告禪誦時。覺煩惱夢解。見聞哀忽破邪險。直生真慈止幽冥。苦脫流轉羈。惟功惟德億千萬斯。以故古德云。劫石有消日。洪音無盡期。正保二年八月六日。雲居叟希膺。

坐禪巖 山ノ上ニアリ。石切山ノ南鄰ナリ。雲居

坐禪セシ所ト云フ。

○無量寺谷

無量寺谷ハ興禪寺ノ西ノ方ノ谷ナリ。昔此處ニ

無量寺ト云寺有。泉涌寺ノ末寺也。シト云フ。今ハ
 亡。按スルニ。東鑑ニ。文永二十年。六月三日。故秋田
 城ノ介義景ヨシノカ十三年ノ佛事ヲ。無量壽院ニテ修ス
 トアリ。義景ハ。藤九郎盛長モリノチカか子ニテ。居宅甘繩アマノヒナ
 リ。此邊ニテ甘繩ノ内ナレバ。此寺歟。後無量寺ト云
 傳ル歟。又鎌倉九代記ニ。禪秀亂ノ時。持氏方ヨ
 リ。無量寺口ヘハ上杉藏人憲長ノリノチカ百七十騎ニテ
 向ヘラルトアルハ此所ナリ。今鍛冶綱廣カシヤツナヒロカ宅有。

○法住寺谷

法住寺谷ハ。無量寺谷ノ南ナリ。昔律宗ノ寺ノ舊
 跡也ト云傳フ。

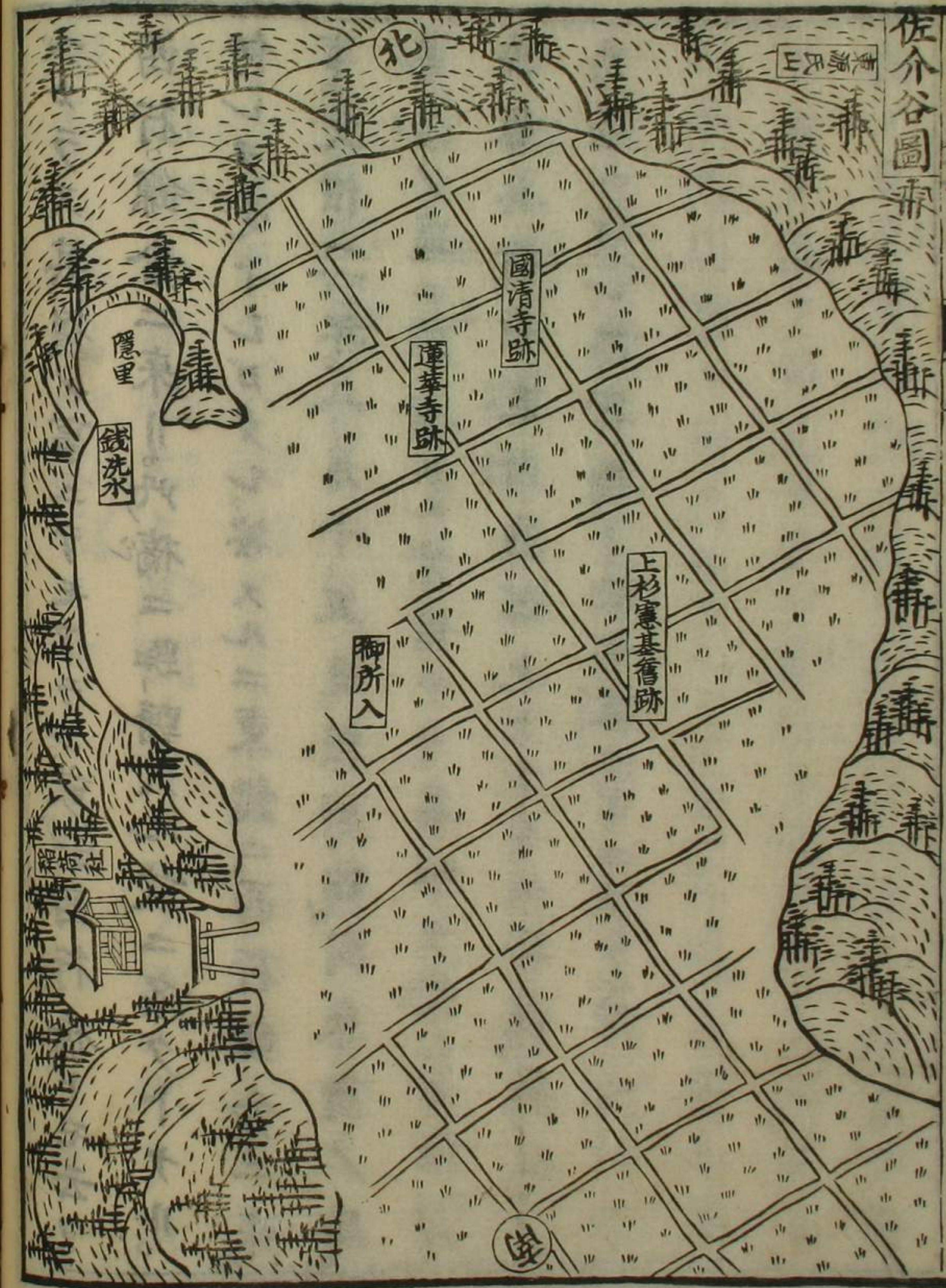
○裁許橋

裁許橋ハ。佐介谷ヨリ流出ル川ニ渡セル橋ナリ。天
 狗堂ノ東ニアリ。里俗ノ云。賴朝ノ時。此所ニ屋敷有
 テ訴訟ヲ決断ス。故ニ名クト。今按スルニ。東鑑ニ。正
 治元年。四月一日。賴家將軍ノ時。問注所ヲ郷外
 ニ建ラル。是賴朝卿ノ時ハ。營中ト一所ニ就テ。訴論
 人ヲ召決セラル。ノ間。諸人羣集シテ。鼓騷ヲナシ。
 無禮ヲアラハスノ條。頗ル狼藉ノ基タリ。故ニ他所ニ
 於テ此儀ヲ行ハル。熊谷直實。久下直光ト。境論對

決ノ日。直實^{チカサキ}西侍^{セウジ}ニ於テ。鬢髮ヲハラフノ後。永ク御
 所^{トコロ}中ノ儀ヲ停止セラレ。善信^{ゼンシン}か家ヲ以テ其^{コノ}所^{トコロ}ト
 ス。今又別墾ヲ新造セラルトアリ。又同^{ナニ}二年。五月
 十二日。念佛名ノ僧等ヲ禁断シ給フ。比企^{ヒキ}弥四
 郎^{ヤシロウ}仰^{オモ}ヲ奉^{ウケ}ハリ。コレヲ相具シ。政所^{セイショ}ノ橋ノ邊ニ行^{ユク}向^{ムカ}ヒ。
 架^カ架^カヲ剝^ハ取^リテ焼トアリ。又和田合戰ノ時。御所
 ノ西南^{シヨウナン}政所^{セイショ}ノ前ニテ戰フトアレバ。此^{ココ}所^{トコロ}。賴朝屋敷
 ヲリハ西南^{シヨウナン}ナレバ。政所^{セイショ}アリケルカ又朝夷名^{チヨウイナ}三郎義
 秀^{ヨシヒデ}。足利^{タシ}三郎義氏^{ヨシウヂ}ト。政所^{セイショ}ノ前ノ橋ノ傍^{トナリ}ニ於テ相
 逢^{アヒ}トアリ。問^ト注^チ所^{トコロ}。政所^{セイショ}ノ跡ナラン歟。賴朝ノ時ニ限ル

べカラズ。其後ノ事ニテモアラシ。或^{ある}云^い。西行橋トモ云フ。
 西行。鎌倉ニ来リ。此^{ココ}橋ニ躑躅スル故ニ名クトナリ。
 何^{ナニ}レヲ是^{コト}トシガタシ。按スルニ東鑑ニ西行。鎌倉ニ来
 事。文治二年。八月十五日。賴朝。鶴岡參詣ノ時。
 鳥^{トリ}居^キノ邊ニ徘徊スル老僧アリ。名字ヲ問^とシメ給^{たま}ハバ。
 佐藤兵衛尉憲清法師也トアリ。此橋鶴岡ノ二ノ
 鳥^{トリ}居^キヘ近シ。西行橋ト云モ。據^よナキニアラス。

佐介谷圖



○佐介谷

附御所入 國清寺跡 蓮華寺跡 稻荷社
 隠里 錢洗水 薬師堂跡

佐介谷ハ谷ノ入口東南へ向フ。分内廣フシテ。其内ニ又谷ハ多シ。東鑑ニ寛元四年。六月廿七日。入道大納言家家頼越後守時盛モリカ。佐介ノ第二渡御之給フトアリ。又同五年。正月廿日。越後入道勝圓シカ。佐介ノ亭ノ後ノ山ニ光リ物飛行トアリ。又建長二年。六月廿四日。佐介ニ居住スル者。俄ニ自害ス。聞者競ヒ集リ見ル。此人ノ壻アリ。日来同宅ス。其壻田舎へ下ル。其隙ヲ窺ヒ。艶言ヲ息女ニ通ハス。息女アハテ、許容セス。櫛ヲ投テ取之者ハ骨肉毛皆他

人ニ變ズルノ由ヲ称ス。彼父息女ノ居所ニ到リ。屏風ノ上ヨリ櫛ヲ投入。彼息女不意コレヲトル。仍テ父ステニ他人ニナヅラヘテ志ヲ遂ントス。時ニ婿不圖田舎ヨリ歸リ來ル間々。忽千下。悲ムニ夕ヘズシテ自害ス。婿仰天シ悲歎ノ餘リ即千離別ス。妻父ノ命ニシタカハサルニ依テ。此珍事出來ス。不孝ノ致ストコロナリ。芳契ヲホドコス事アタハズト云。剩出家修行シテ。舅ノ亡後ヲ弔トアリ。又土俗ノ云。上總介千葉介三浦介ノ三介此所ニ住居ス。故ニ三介カ谷ト名クト。是ハ據ナシ。古キ記録等ニハ。

佐介トバカリアリ。谷ノ字ハナシ。今ハ佐介谷ト云フ。佐介遠江守カ舊跡モ此所ニアリ。又上杉安房守憲基カ舊宅モ此所ニアリ。鎌倉大草子ニ應永廿三年。十月二日。犬懸入道上杉禪秀氏管領源持氏ノ伯父滿隆ヲカタラヒ叛逆ノ時。持氏ハ大倉ノ御所ヨリ。上杉憲基カ佐介ノ亭ニ遁レ來リ。滿隆禪秀カ兵ヲ防キ戰ハル。終ニ不叶シテ。持氏モ憲基モ極樂寺口ヘカハリ。片瀨腰越ヲ打過。伊豆ノ國清寺ヘ落行給フトアリ。御所入。此谷ノ内ニアリ。古老ノ云。平經時ノ住

セシ所也。按スルニ光明寺記主傳ニ平經時。佐介谷ニ隱居シ。專修念佛シテ卒ス。アリ。經時ノ墓。佐々目山ノ麓ニアリ。此所ヨリ不遠。

國清寺跡 此内ニ寺ノ内ト云所アリ。國清寺ノ跡ト云フ。鎌倉大草子并ニ上杉禪秀記ニ。上杉憲顯ノ建立也トアリ。今按スルニ。扶桑禪林諸祖傳ニ。松嶺秀和尚ノ傳ニ。上杉大全居士長基。豆州ノ國清寺ヲ遷シテ。湘江佐谷ニ鼎建ストアリ。大全居士ハ安房守憲定ナリ。長基ハ其法名ナリ。憲定ハ明月院道合憲方ガ子ニテ。憲基ガ

父ナリ。憲顯ガタメニハ孫ナリ。空華集ニ。豆州ノ國清寺ハ昔律院ニテ。高雄文覺上人ノ舊宅也。上杉憲顯律ヲ革メテ禪トシ。佛國禪師ノ弟子無礙謙公ヲ開山祖トストアリ。鎌倉九代記ニ。憲顯ヲ伊豆國清寺ニ葬ル。法名ハ國清寺殿桂山道昌ト云フ。然ルトキハ。憲顯ハ伊豆國清寺ヲ再興セラレ。其孫憲定ガ時ニ。伊豆國清寺ヲ此所ニ遷シタルヲ。大草子。禪秀記ニハ。憲顯カ建立トカキタリ。又滿隆禪秀ガ亂ノ時。持氏ハ。憲基ノ亭ニ居セラレシヲ。岩松治部大夫。澁川左

馬介カ手ノ兵。國清寺ニ火ヲカケケレバ。餘煙佐介ノ亭ニモヘカ、ルトアリ。其後ハ絶タリ。本尊ハ。今伊豆、國清寺ニ在ト云フ。

蓮華寺跡。今俗ニ光明寺畠ト云フ。光明寺。本

此、地ニアツテ。蓮華寺ト號ス。後ニ光明寺ト改ム。鎌倉大日記ニ。建長三年。經時ノ為ニ。佐介ニ於

テ蓮華寺建、立。住持良忠トアリ。良忠此谷ニ居住アリシユヘニ。佐介ノ上人ト云フナリ。光明寺ノ條、下及日記主上人傳ニ詳也。

稻荷社。此、谷ノ内ニアリ。山林茂タル地ナリ。崩谷

華光院ノ持分ナリ。毎年二月ノ初、午ノ日鎌倉中ノ男女參詣多シ。雪下等覺院ニ尊氏ノ證文一通アリ。其文ニ。凶徒對治祈禱ノ事。殊可被致。精誠之状如件。延文四年。十二月十一日。佐介、谷、稻荷社別當三位僧都ノ御房トアリ。尊氏ノ判アリ。

隱里。稻荷ノ近所ニアル。大巖窟ヲ云フナリ。

錢洗水。隱里ノ巖窟ノ中ニアリ。福神錢ヲ洗ト云フ。鎌倉五水ノ一ツ也。

藥師堂跡。里老ノ云。此谷ノ入口ノ東南ニ。昔ハ

藥師堂有ト云傳フ。然レドモ令其不分明。按
 ズルニ東鑑ニ。正嘉二年。正月十七日。秋田城。介
 泰盛ガ甘繩ノ宅ヨリ火出テ。南風頻リニ吹テ。藥
 師堂ノ後ノ山ヲ越テ。壽福寺等焼失トアリ。泰
 盛ハ盛長カ孫ナリ。盛長カ屋敷。甘繩明神ノ東ニ
 アレハ。藥師堂其北ニアタレリ。鎌倉大草子ニ。禪
 秀亂ノ時。持氏ハ憲基ノ亭ニ取籠ラレシガ。藥師
 堂表ヘハ。結城彈正少弼。二百餘騎ニテ向ヘラルト
 アリ。持氏ノ時ニテ有ツル歟。

○天狗堂

天狗堂ハ長谷小路ヨリ。佐介谷ヘ入手ノ右ノ山出
 前ナリ。昔愛宕ノ社アリケルトナリ。太平記ニ。天狗堂
 ト。扇谷ニ軍アリト云ハ。此所ノ事ナリ。

○千葉屋敷

千葉屋敷ハ天狗堂ノ東ノ畠ヲ云。相傳千葉介常
 胤カ舊宅ト。東鑑ニ。阿静房安念。司馬ノ甘繩ノ家
 ニ向ト云ハ是ナリ。司馬トハ千葉成胤ヲ云ナリ。成胤
 ハ常胤カ嫡孫ニテ。胤正カ子ナリ。

○諏訪屋敷

諏訪屋敷ハ千葉屋敷ノ東南ノ畠ヲ云。昔諏訪氏

ノ宅字アリシトナリ。

○七観音谷

七観音谷ハ天狗堂ヨリ西ノ方ノ谷ナリ。昔此所ニ
観音堂有ト云フ。按ズルニ東鑑ニ元久元年十二月
十八日。尼御臺所ノ御願トシテ。七観音ノ像ヲ圖
繪セラルトアリ。或ハ此像安置ノ堂アリツルカ。又建
長二年。十二月十八日。相州時頼室家ノ御願トシ
テ。七観音堂ノ前ニテ。誦經ヲ修セラルトアリ。此所乎。

○飢渴島

飢渴島ハ裁許橋ノ南路端ナリ。此所昔ヨリ刑罰

ノ所ニテ。今モ衆人ヲサラシ。斬戮スル地ナリ。故ニ耕作
ヲセズ。飢渴島ト名ク。

○佐佐目谷

附經時墓

佐佐延三目谷ハ飢渴島ノ西ノ方ノ谷ナリ。此谷
ニ昔シ寺有長樂寺ト稱ス。法然ノ弟子隆觀住セ
シトナリ。又武藏守平經時。寛元四年。閏四月朔
日ニ卒シ。佐佐目ノ山ノ麓ニ葬ル。後梵宇ヲ建ラル。又
頼嗣將軍ノ御臺所ヲモ經時ノ墓ノ傍ニ立ト。東鑑
ニ見ヘタリ。今共ニ其所ヲ知人ナシ。

○塔辻

塔^タ過^カハ。佐^サ佐^サ目^メ谷^ヤノ東^{トウ}南^{ナン}道^{ドウ}端^{タン}ニ二^ニ所^{ショ}ニ石^{イシ}塔^タ有^{アリ}。鎌倉^{カマクラ}ニ此^{コノ}類^{ルイ}ノ塔^タ多^タシ。辻^{ツジ}ニア^レバ塔^タ過^カト云^ク。建^{ケン}長^{チヤウ}寺^ジ。圓^{エン}覺^{ケツ}寺^ジノ前^{マヘ}。又^{マタ}雪^{ユキ}下^{シタ}鐵^{テツ}觀^{カン}音^{オン}ノ前^{マヘ}。又^{マタ}小^コ町^{チヤウ}口^{グチ}ニモアリ。東^{トウ}鑑^{ケン}等^{トウ}ノ古^コ記^キニ。塔^タ過^カト指^{サシ}ハ皆^{ミナ}小^コ町^{チヤウ}口^{グチ}ヲ云^クナリ。里^リ俗^{ソク}ノ云^ク。由^ユ井^ヒ長^{チヤウ}者^{シヤ}太^{タイ}即^{キヤク}大^{ダイ}夫^フ時^ジ忠^{チュウ}ト云^ク者^{シヤ}三^{サン}歲^{サイ}ノ兒^ニヲ驚^{オドロク}ニツカマレ。方^{カタ}々^{カタ}ヲ尋^{タズ}求^ムテ。道^{ミチ}路^ロニ棄^{スツ}タル骨^{ボネ}肉^{ニク}ノアハ所^{トコロ}ゴトニ。是^{コト}ヤ我^{ワガ}子^コノ骨^{ボネ}肉^{ニク}ナラシカトテ。菩^{ボツ}提^{テイ}ノ為^ニニ立^{タツ}タル石^{イシ}塔^タ也^{ナリ}。是^{コト}故^{ユヘ}ニ所^{トコロ}々^{カタ}ニ塔^タノ辻^{ツジ}ト云^ク所^{トコロ}多^タシト。今^{イマ}按^{アツ}ズルニ詞^ジ林^{リン}采^{サイ}葉^{エフ}抄^{セウ}ニ。大^{ダイ}織^{オリ}冠^{クワン}ノ玄^{ゲン}孫^{ソン}ニ。深^{フカ}屋^ヤ太^{タイ}即^{キヤク}大^{ダイ}夫^フ時^ジ忠^{チュウ}。南^{ナン}都^ト良^{ラウ}辨^{ベン}ノ父^{チチ}也^{ナリ}。文^{ブン}武^ブ天^{テン}皇^{クワン}ノ御^ミ宇^ウヨリ。

聖^{セイ}武^ブ天^{テン}皇^{クワン}ノ御^ミ宇^ウニ至^シルマテ鎌倉^{カマクラ}ニ居^イ住^{ジュ}シ。東^{トウ}ハ一^{イツ}箇^{カン}國^{クニ}ノ總^{ソウ}追^{ツイ}補^ポ使^シトナリテ東^{トウ}夷^イヲ鎮^{チン}ムトアリ。是^{コト}ナラシカ。然^{シカ}レトモ未^ミ詳^{テイ}。良^{ラウ}辨^{ベン}ノ父^{チチ}トハイヘドモ。元^{ゲン}亨^{テイ}釋^{シヤク}書^{ショ}ニモ不^フ載^{サイ}。釋^{シヤク}書^{ショ}ニ。良^{ラウ}辨^{ベン}ハ近^{キン}州^{シュウ}志^シ賀^カ里^リ人^ニ。或^{シカ}ハ相^{シヤウ}州^{シュウ}ノ人^ニトモ云^クト有^リ。又^{マタ}驚^{オドロク}ニツカマレシ事^{コト}モアレハ相^{シヤウ}似^シタルニヤ。

○藤九郎盛長屋敷

藤^{フジ}九^ク郎^{ラウ}盛^{セイ}長^{チヤウ}屋^ヤ敷^シ。甘^{カン}繩^{ゼン}明^{メイ}神^{シン}ノ前^{マヘ}。東^{トウ}ノ方^{カタ}ヲ云^ク。東^{トウ}鑑^{ケン}ニ。治^チ承^{テイ}四^シ年^{ネン}。十^{ジュウ}二^ニ月^{ゲツ}廿^ニ日^{ニチ}。武^ブ衛^{エイ}御^ミ行^{キヤウ}始^シメトシテ。藤^{フジ}九^ク郎^{ラウ}盛^{セイ}長^{チヤウ}カ。甘^{カン}繩^{ゼン}ノ家^カニ入^イ御^ミシ給^{キヨ}フトアリ。其^{コノ}後^{ノチ}往^{イリ}々^{カタ}見^ミヘタリ。

○甘繩明神

甘繩甘或ハ作明神ハ佐佐目谷ノ西路ノ北ニアル茂

林ナリ。天照大神ヲ勸請ス。神主ハ小池氏也。東鑑

ニ。文治二年正月二日。二品朝并ニ御臺所。甘繩

神明ノ宮ニ御參トアリ。又甘繩神明奉幣ノ事。往

見ヘタリ。里俗或ハ誤テタマハト云者アリ。玉繩ト

云所ハ山内莊内ニアリ。按スルニ東鑑ニ甘繩ニタマハト假名ヲ付タリ。鎌倉九代記ニ玉繩城

ヲ甘繩ト書テ假名ハタマハト付タリ。東鑑ハ字正シクシテ假名アマリ。九代記ハ假名正クシテ字アマル。讀ハ心ヲ付ヨ。又關東兵亂記ニ玉繩城アリ皆山内ノ莊内ニアルヲ指スナリ。此地ヨリ西ノ方ハ長谷村也。

東北ノ山ニ隨テ。無量寺谷ニテ甘繩ノ内ナリ。

○盛久頸座

盛久頸座ハ塔邊ノ道ヨリ。南畠ノ端ニ芝野六七尺

四方取殘シテ有。長門本平家物語卷廿ニ主馬

入道盛國カ末子ニ主馬ハ郎左衛門盛久。京都

ニ隱レ居ケルガ年来ノ宿願ニテ等身ノ千手觀音

ヲ造立シテ。清水寺ノ本尊ノ右ノ脇ニ奉置。千日參

詣ス。右兵衛佐殿。北條四郎時政ニ仰ラレ。盛久。京

都ニ隱居タル由聞ヘケレバ。北條京中ヲ尋求ケレドモ。

更ニ尋不得。或時下女來テ。誠ニヤ盛久ハ清水寺へ

夜ゴトニ詣給フナリトゾ申タル。北條悅シテ。清水寺

邊二人ヲ置。窺見せ。盛久ヲ召捕テ。右兵衛佐殿へ
 奉ル。盛久已ニ鎌倉ニ下著ス。梶原景時仰ヲ承テ。
 心中ノ所願ヲ尋申ニ。予細ヲ不迷。盛久ハ平家重
 代相傳ノ家人。重恩厚徳ノ者也。早ク斬刑ニ隨ベ
 シトテ。土屋三郎宗遠ニ仰テ。首ヲ刎ラルベシトテ。文
 治二年。六月二十八日ニ。盛久ヲ由比濱ニ引ス。二
 盛久西ニ向テ念佛十遍許申ケルカ。如何思ケニ
 南ニ向テ又念佛二三十遍許申ケルヲ。宗遠太刀
 ヲ拔頸ヲ打。其太刀中ヨリ打折ヌ。又打太刀モ目
 貫ヨリ折ニケリ。不思議ノ思ヲナスニ。富士ノスソヨ

リ光リニ筋。盛久ガ身ニ當タルトゾ見ヘケル。宗遠
 使者ヲ立テ。此由ヲ右兵衛佐殿ニ申ス。又右兵
 衛佐殿ノ北方。夢ニ老僧一人出来テ。盛久斬首
 ノ罪ニ當ラレ候カ。枉テ宥免候ベキ由申ス。北方誰
 人ニ御座スルゾ。僧申ケルハ。我ハ清水邊ニ候僧ナリ
 ト申ト覺ヘテ夢サメテ。右兵衛佐殿ニ此由申サル。
 此ニ因テ盛久ヲ召返サレタリ。右兵衛佐殿。祗帶
 ハナキカド問給ヘハ。紀伊國ニ候シカドモ。君ノ御領ニ
 テカリ成テ候ト申ス。安堵ノ御下文ヲ給ルトアリ。又
 東鑑ニ。大夫尉伊勢守平盛國入道。去年召下サ

レ。文治二年。七月二十五日。断食シテ死ス。是下總守季衡が七男。平家ノ氏族也トアリ。此盛國ハ。盛久か父ニハアラス。盛久か父ノ盛國カ為ニハ叔父ナリ。盛久父子ノ事ハ。東鑑ニ不見。

○稻瀨河

稻瀨河。或ハ水無能瀨川トモ云フ。大佛ノ方。御輿嶽ヨリ長谷ノ前ヲ。海ノ方ヘ流ル。河ナリ。東鑑ニ治承四年。十月十一日。御臺_{平政}伊豆國阿岐_子戸郷ヨリ。鎌倉ニ入。御之給フ。日次不_{ヨシカラ}空ニ依テ。稻瀨河ノ邊。民屋ニ止宿シ給フ。又元暦元年。八月八日。

三河守範賴。平家追討使トシテ進發ノ時。扈從ノ輩一千餘騎。賴朝卿。稻瀨河ノ邊ニ棧敷ヲ構ヘ見物シ給フトアリ。萬葉集ノ歌ニ。作者不知真カナシニ。サ子ニハハユク鎌倉ノ。水無能瀨川ニ潮ミツナシカ。扶木集ニ。野宮ノ左大臣ノ歌ニ。東路ヤ。水無能瀨川ニミツシホノ。ヒル間モミヘヌ。五月雨ノ比。中納言為相ノ歌ニ。潮ヨリモ。霞ヤサキニミク又ラン。水無能瀨川ノアクル。湊ハ。又サシノボル。水無能瀨川ノ夕潮ニ。湊ノ月ノ影グチカツク。後三位為實ノ歌ニ。立マカフ。波ノシホ踏モヘダ。リヌ。水無能瀨川ノ秋ノ

夕霧。法印堯慧か歌ニ。水浅キ。濱ノ真沙ヲ越波モ。
 水無能瀬川ニ春雨ノ降。此等ノ歌。皆此河ヲ詠タ
 リ。水無瀬川ト云ハ。山城。太和。攝津ニモアリ。又梅
 松論ニ義貞。鎌倉合戦ノ時。大館宗氏。稻瀬河ニ
 於テ討取ラルト有モ此所ナリ。

○光則寺

附宿屋光則舊跡

光則寺ハ。行時山ト號ス。大佛一行道左ニアリ。此
 所ヲ宿屋トモ云フ。相傳フ。平時賴家。居宿屋左衛
 門光則入道西信カ宅地ナリト。昔日蓮龍口ニテ
 首ノ座ニ及フ時。弟子日朗日心二人。檀那四條金

吾。父子四人。安國寺ニテ召捕テ。光則ニ預ケ給ヒ。
 土籠ニ入ラル。日蓮不思議ノ奇瑞有テ害ヲ免ル。
 因テ光則信ヲ起シ。宅地ニ草菴ヲ結ビ。日朗ヲ開
 山祖トス。光則カ父ノ名ヲ行時ト云。故ニ父ノ名ヲ
 山號トシ。我名ヲ寺號トスト云。近年古田兵部少
 輔重恒カ後室。大梅院再興ス。故ニ今大梅寺ト
 モ云ナリ。堂ニ。日蓮。日朗ノ木像。光則四條金吾。父
 子四人ノ像モアリ。妙本寺ノ末寺ナリ。
 日朗土籠寺ノ北ノ方山上ニアリ。

大佛圖



○大佛 附切通

大佛ハ大異山淨泉寺ト號ス此所ヲ深澤ト云。大佛ノ坐像長三丈五尺。膝ノ通りニテ。横五間半。袖口ヨリ指ノ末ニテ二尺七寸餘アリ。建長寺持分ナリ。東鑑ニ曆仁元年三月廿三日。相摸國深澤里大佛殿ノ事始ナリ。僧淨光尊卑緇素ヲ勸進シテ。此營作ヲ企ツ。同五月十八日。大佛ノ御頭奉奉ル。周八丈ナリ。仁治二年三月廿七日。深澤ノ大佛殿。上棟ノ儀アリ。寛元元年六月十六日。深澤村ニ一字ノ精舎ヲ建立シ。八丈餘ノ阿弥陀ノ像ヲ安ス。

今日供養ヲノブ。導師ハ。卿ノ僧正良信。讚衆十人。勸進ノ聖人淨光坊。此六年ノ間。

按スルニ曆仁元ヨリ。寛元元ニテ合六年。

都鄙ヲ勸進ス。卑尊ヲ奉加セズト云事ナシトアリ。

是皆賴經將軍ノ時也。又建長四年。八月十七日。

深澤里ニ。金銅ニテ釋迦如來ノ像鑄奉ルト有。宗尊

親王ノ時ナリ。源親行東關紀行ニ。由比ノ浦ニ阿弥

陀ノ大佛ヲ作りタテマツル事ノ起リヲ尋ヌルニ本ハ

遠江國ノ人淨光上人ト云者有。過ニシ延應ノ比ニ。

關東尊卑ヲ勸テ佛像ヲ佐ル。此阿弥陀ハ八丈ノ

長木像也トアリ。按スルニ曆仁元年ニ。淨光造佐ノ

佛モ八丈ノ阿弥陀佛トアリ。延應ハ曆仁ノ次ノ年ナ

リ。所謂六年ノ内ナレバ。東鑑ニ符合セリ。其佛ハ何レ

ノ時カ滅亡シテ。今ノ大佛ハ金銅盧遮那佛ナリ。東

鑑ニ所謂。建長四年ニ鑄タル佛カ。堂ナシ。礎石ノミナ

リ。鎌倉大日記ニ。應安二年。九月三日。大風。鎌倉

大佛殿。顛倒。明應四年八月十五日。洪水。由比

濱。海水激揚シテ。大佛ノ堂ヲ破ルトアリ。建長寺過

去帳ニ。大佛開山。大素和尚諱ハ素一トアリ。素一

ハ。中興開山ナリト云フ。

題銅大佛

萬里居士

自註云。銅大佛長七八丈。腹中空洞。應容
數百人。無堂宇。而露坐突兀。洛諺云。南都
半佛雲狐。雲狐之半佛東福。

兄在南都第東福。可憐佛。去去年貧寶。跌塵
蝕無堂宇。腸瘦纔容數百人。

宿相之大佛寺 義堂

早歲曾遊頻甲子。羞將髮白對山蒼。寺瀕海
岸吹松激潮退。灘沙送月長。去鴈七書家萬
里寒砧牽夢楚。三霜客懷蕭颯秋風晚。憐爾
園蓀小吐芳。

大佛切通 大佛西ノ方ナリ。此切通ヲ越レハ常盤里

へ出ルナリ。東鑑ニ治承五年。九月十六日。足利太
郎藤原俊綱が郎等。桐生六郎。主ノ俊綱が首ヲ持
參シテ。梶原平三カ許ニ案内ヲ申ス。シカルニ鎌倉ノ
中ニ入ラレズ。直ニ武藏大路ヨリ深澤ヲ經テ腰越
ニ向フトアリ。深澤ヲヘテ行道。此道筋ナラニカ。鶴
岡一鳥居ヨリ。此所マテ。二十町バカリアリ。

○御輿嶽

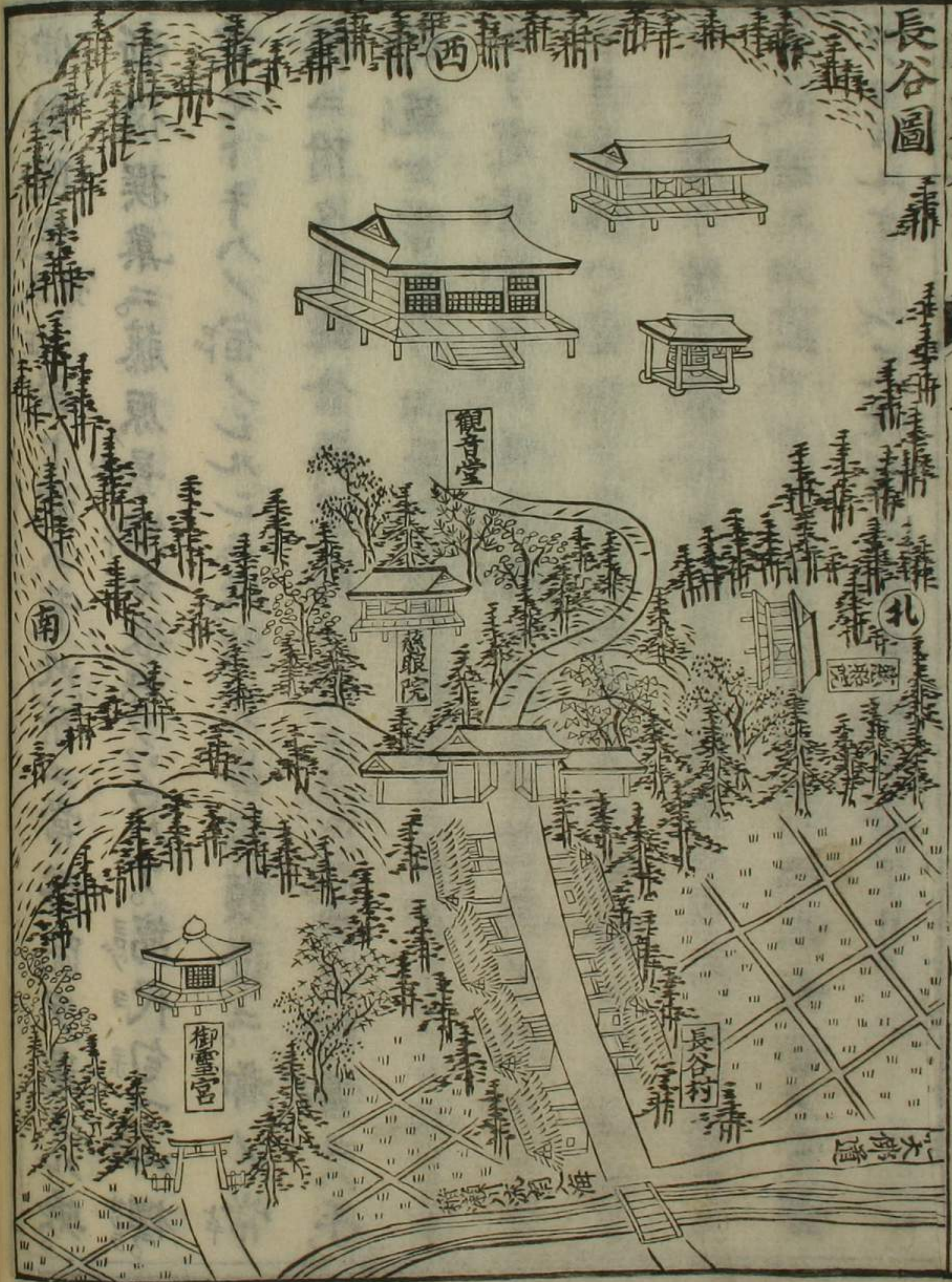
御輿コガ或ハ越ハ嶽トハ大佛ノ東ノ山ナリ。左京大輔顯仲ノ歌ニ
鎌倉ヤ御輿ノ嶽ニ雪キヘテ。水無能瀬川ニ水マサルナ

リトアリ。水無能瀬川ハ。前ニ出ス。又ハ御輿崎トモ云ナ
 リ。萬葉集ノ歌。作者不知鎌倉ノミコシカ崎ノ岩グエノ。君カクユ
 へキ。心ハモ夕シ。中務卿宗尊親王歌ニ。都ニハヤ吹ヌラシ鎌倉
 ヤ。御輿崎ノ秋ノ初風トアリ。

○常磐里 附常磐御所跡

常磐里ハ大佛切通ヲ越レバ常磐里ナリ。東鑑ニ建長
 八年。八月廿三日。將軍家。新奥州政村カ常磐ノ第二入
 御ニ給フト有。又弘長三年。二月八日。政村カ常磐御所
 ニテ。一日千首ノ和歌ノ會ノ事アリ。今此内ニ。里民。常
 磐御所ト云傳ル所アリ。政村カ亭ノ跡ナリ。政村ヲ

常磐院定或作佐崇ト號ス。昔此所ニ常磐院ヲ建タル歟。
 新後撰集ニ。藤原景綱カ歌ニ。ウツロハテ。萬代句へ山櫻
 花モトキハノ宿ノシルシニ。此歌ヲ。昌琢類聚ニ。都ノ常
 磐ニ附タリ。鎌倉無案内ノ故ナラン。此歌ノ詞書ニ。平
 時範カ常磐ノ山莊ニテ。寄花祝ト云事ヲヨミ侍リケ
 ルト有。時範ハ。北條重時カ孫ニテ陸奥守時茂カ子
 ナリ。景綱ハ。重時カ兄。泰時カ家士也。按スルニ。時茂ヲ
 モ常磐ト號ス。政村カ姪ナリ。時茂ヨリ。時範ニ至ルニ
 テ。此所ニ山莊アリツラシカレバ。此歌鎌倉ノ常磐
 ヲヨメルナラン。又此所ニ常葉松ト云アリ。



○長谷観音堂

長谷^{ハセ}観音堂ハ海光山^{カイカクサン}ト號ス。額ニ長谷寺。子純筆トアリ。子純、事在杉本寺下。坂東巡禮札所第四ナリ。光明寺ノ末寺ナリ。相傳、此観音大和長谷ヨリ洪水ニ流サレ。馬入^{バシラ}へ流レ寄タルヲ上テ。飯山ニ有シヲ。忍性^{ニシキウ}ト。大江^{オホエ}、廣元^{ヒロノ}ト謀テ。此所ニ移スト。按スルニ忍性、傳ニ。建保五年ニ生^{ウマ}。十六ニテ出家ストアリ。廣元ハ嘉祿元年ニ卒ス。時ニ忍性、斷^{ツグ}九歳ナリ。且釋書ニ。私長ノ始、相陽ニ入トアレバ。此事不審。又云。和州長谷ノ観音ト此観音トハ一木ノ楠ニテ佐レリ。和州ノ

觀音ハ木本。此像ハ木末也。十一面觀音ニテ長二

丈六尺二分。春日作。按ズルニ春日ト云ハ佛師ノ名ナリ。佛

多アリ。舊記ニ。誓文會。誓主數ハ河内國春日部ノ邑人。兄弟共ニ佛

師ナリトアリ。是ヲ春日ガ佐ト云ナリ。浮屠附會ノ説ニ。春日大明神

ノ作ト云テ世人ヲ迷ハセリ不可信。阿弥陀。作者十一面像。宅間法如意輪像。

安阿勢至像。安阿此像畠山重忠カ持佛堂ノ本尊

ト云傳フ。聖德太子像。作者和州長谷開山德道

上人像。自每年六月十七日當寺ノ會ニテ貴賤

老少參詣多シ。寺領二貫文アリ。鶴岡一鳥居ヨリ

十八町許アリ。和州長谷寺觀音像事并德道傳

出元亨釋書德道乃法道仙人也。

棟札

當寺者觀音堅座之靈場。威力自在之効驗。

攀世皆崇信之。雖然大破年久不能興焉。方

今為武門永昌。闔國治平之祈念。入圓通之

境。開普門之道。乃使巧匠終土木之功。而所

經營造替也。相模州鎌倉長谷觀音堂。正保

二年乙酉月日。若狹國主。淺四位上左近衛

少將兼讚岐守源朝臣忠勝。奉行。成田助右

衛門尉。飯田新兵衛尉。大工桐山源四郎。今

ノ棟札ナリ。昔ノ棟札ノ寫シ光明寺ニアリ。其文如左。

大日本國相模州小坂郡鎌倉府海光山長

谷寺。荒廢七、零八、落年久矣。於茲征夷大將軍源朝臣家康。修造再興。上棟不日而成。就豈不觀音方便乎。伏願官門長保南山壽久。為北闕尊次。冀佛法紹盛。的々相承。億萬年。維皆慶長十二年丁未七月十二日。大工吉野九郎右衛門尉棟梁。增田四郎左衛門尉。造營奉行。石川吉兵衛尉。代官。深津八九郎貞久。奉行。伊奈備前守忠次。別當。春宗。敬白。裡書。福山寶珠菴元英祥珪書焉。

鐘樓 鐘銘アリ如左

長谷寺觀音堂鐘銘

新長谷寺。椎鐘威力十方。施主消除不祥。消除災難。心中願。決定成就。檀波羅蜜。具足圓滿。文永元年甲子七月十五日。當寺住持真光。勸進。沙門淨佛。大工。物部季重。

慈照院 本堂ノ北東ニアリ。

慈眼院 本堂ノ東ニアリ。

○御靈宮

御靈宮。長谷村ヨリ西南ノ方ニアリ。鎌倉權五郎平景政カ祠ナリ。景政カ事。奥羽軍記ニ詳ナリ。

東鑑ニ建久五年正月御靈社御奉幣。八田知家御使タリ。御靈社ノ事往々見タリ。保元物語ニ後三年ノ御合戰ニ鳥海城ヲ落サレシ時。生年十六歳ニテ。左ノ眼ヲイサセテ。其矢ヲ不拔シテ。答ノ矢ヲ射テ敵ヲ打。名ヲ後代ニ揚。今ハ神トイハレタル。鎌倉権五郎景政トアリ。神主ハ小坂氏ナリ。景政ガ家臣ノ末也ト云フ。梶原村ニモ御靈宮アリ。里老云。當社ハ本梶原村ニ有シヲ。後ニ此地ニモ勸請ス。故ニ今祭禮ノ時ハ彼所ノ神主出合テ勤ト也。

新編鎌倉志卷之五

新編鎌倉志卷之六目錄

星月夜井

附虚空藏堂

極樂寺

附切通

辨慶腰懸松

月影谷

附阿佛屋敷

聖福寺舊跡

針磨橋

稻村

附稻村崎

横手原

靈山崎

袖浦

十一人塚

七里濱

音無隴

日蓮袈裟掛松

行合川

金洗澤

津村

小動 附八王子宮

腰越村

瀧福寺 附硯池

袂浦

龍口寺

固瀨村 附固瀨川

西行見返松

笈燒松

唐原

砥上原 附八松原

江島 附兎淵 仁田四郎拔穴

西行法師
 國顯林
 諸口寺

新編鎌倉志卷之六

河井恒久友水父纂述

松村清之伯胤父考訂

力石忠一叔貫 參補

○星月夜井 附 虚空藏堂

星月夜井ハ極樂寺ノ切通へ上ル坂ノ下右ノ方ニ
 アリ。里老云昔ハ此井ノ中ニ晝モ星ノ影見ユル故ニ
 名ク此邊ノ奴婢此井ヲ汲ニ来リ。誤テ菜切ヲ井
 中へ落シタリ。爾レヨリ来星影不見ト。又此井ノ西ニ
 虚空藏堂アリ。星月山星井寺ト號ス。極樂寺村ノ。

成就院ノ持分也。成就院ハ真言宗。虚空藏ハ行基
作。長二尺五寸。縁起一卷アリ。其畧ニ云。聖武帝
ノ天平中ニ。此井ニ光アリ。里民不思議ノ思ヲナシ。コレ
ヲ見レハ。井ノ邊ニ虚空藏ノ像現シ給。此由ヲ奏シケ
レバ。行基ニ勅シ。此像ヲ作ラシメ。爰ニ安置シ給フヤ
アリ。後堀河百首ニ。常陸カ歌ニ。我ヒトリ。鎌倉山ヲ
越行ハ。星月夜コソウレシカリケレ。又法印堯慧北
國紀行ニ。極樂寺ヘイタルホドニ。イトクラキ山間ニ星
月夜ト云。厩アリ。昔此道ニ星御堂トテ侍キナド。古
僧ノ申侍シカバ。歌ニ。今モナヲ。星月夜コソノユルラヌ。寺

ナキタニノ闇ノ燈トアリ。星御堂ト云ハ。此虚空藏堂ノ事ナリ
ト云。今按スルニ。此谷ノ名ヲ星月夜ト云。アナガチ井ノ名ニハ
アラス。千壽謠ニモ。明モヤスラン星月夜ト有。古歌ニモ。井ハ不詠

寺寶

明星石 壹顆。黒滑ナル石ニテ。常ニ溼アリ。

馬玉 壹顆。

貝珠 壹顆。

古錢 貳文。一文ハ崇寧通寶。一文ハ元豐通寶。

唐鑑 壹面。

以上

極樂寺圖



○極樂寺

附切通

辨慶、腰懸、松

極樂寺ハ靈山ト號ス。真言律ニテ。南都西大寺ノ末寺ナリ。開山ハ忍性菩薩。良觀上人ト號ス。元亨釋書ニ傳アリ。當寺ハ陸奥守平重時カ建立ナリ。重時ヲ極樂寺ト號シ。法名觀覺ト云。東鑑ニ。弘長元年十一月三日。平重時卒ス。年六十四。時ニ極樂寺ノ別業ニ住ス。發病ノ始ヨリ。萬事ヲ抛テ。一心念佛正。念ニシテ終ルトアリ。按スルニ。元亨釋書ニ。初入正嘉中ニ沙門アリ。一字ヲ營テ。丈六ノ弥勒ノ像ヲ安ス。名テ極樂寺ト云。未落シテ亡ス。平重時其宇

ヲ今ノ地ニ遷シテ齋場トス。重時ノ子長時。同弟業時。カヲ戮テ修營ストアリ。帝王編年記ニ。永仁六年。四月十日。關東將軍家久明親王。御祈禱ノ為ニ。十三箇寺。寺領ノ違亂ヲ停止。殺生禁斷ノ事アリ。相州鎌倉郡極樂寺。其一ツナリ。此寺昔ハ四十九院アリシトナリ。今吉祥院ト云ノミアリ。寺領九貫五百文アリ。又千服茶磨トテ。大ナル石磨門ヲ入右ノ方ニアリ。昔此寺繁昌ナリシヲ。知シメシ為ナリトイフ。鶴岡一鳥居ヨリ是テオ三四町アリ。

本堂 本尊ハ釋迦與正菩薩ノ作ナリ。嵯峨ノ釋

迦ヲ摸シタリトイフ。十大弟子ノ像モアリ。作者不知。左ニ與正菩薩ノ木像。自作トイフ。右ニ忍性菩薩ノ木像。是モ自作ト云。又文殊ノ坐像アリ。古ヘノ文殊堂ノ本尊ナリト云フ。沙石集ニ。慈濟律師此寺ニ住セシ時。或夜ノ夢ニ。文殊告テ曰。連歌シタリ付ヨト。イザカヘリナン本ノ都ヘ。慈濟律師付タリ。思ヒ立。心ノ外ニ道モナシトアリ。慈濟律師ノ夢ニ見シハ。此像ナリト云傳。文殊堂ノ跡。礎石今尚存ス。

寺寶

九條、袈、袈 查頂。乾陀、穀子、袈、袈。東寺第三傳
ト書付アリ。今按スルニ。乾陀、穀子、袈、袈ハ。弘法
大師ノ傳來ニテ。八祖相承トテ。東寺ノ寶物ナリ。
今此寺ニ所有ハ其、袈、袈ヲ摸シタル。第三傳ト見
ヘタリ。

繡心經ノ卓圍 查、張。當麻、中將姫ノ製ト云。廣一
尺二寸四方。卓圍ハ俗ニ云、打敷ナリ。
二、十五條、袈、袈 查頂。紗ナリ。八幡大神ノ所、持ト
云フ。按スルニ八幡へ調進ノ物ナリ。
瑜伽論 三卷。菅丞相、筆。其說在柄ノ天神ノ條、

下二詳カナリ。

繪、旨 貳通。共ニ嘉曆二年トアリ。
右馬、允政季證文 查通。
尊氏、證文 查通。
義詮、證文 查通。
義滿、證文 查通。
氏備、證文 查通。
千體地、藏 弘法、作。本尊ハ長一寸餘。千體ハ長
五六分バカリ也。今皆紛失シテ。纔ニ二三百バカリ残り。
開山忍性、賜、菩薩號、勅書、寫 壹通。其文如左。

勅傳燈大法師位忍性者。挑法燈於闇室。琢戒珠於日域。化儀之被遐邇。循誘人誦響之繼。晨宵翼々克已。五十二位之內證。雖已暗辨。五十二年之練行。於是自彰。廣致檀施。誠為悲增。乃任彼弟葉之請。益空許其菩薩稱號矣。嘉曆二年五月廿五日。

忍性菩薩行狀畧頌 壹冊其文如左。

良觀上人諱忍性。父伴貞行。母榎氏。和州城下屏風生。建保五年七十六生。年十一安貞元。就師學問。信貴山唱五字咒。祈道心。寬喜

元年十三歲。誓斷食肉。學慈氏。生年十四同二年。摺文殊像。并行戒。貞永元年十六歲。母儀逝去。訪菩提。居額安寺。經八旬。同年剃髮而出家。每月參詣安倍寺。首尾四年。祈發心。生年十七。天福元。登壇受戒。東大寺。文曆元年十八歲。讀誦法華。發信心。採花供佛。一夏中。嘉禎元年十九歲。六年每月詣生馬生。年二十同二年。七日斷食。三箇度。念五字。明五十萬。二十三歲。延應元。誓斷婬酒。盡未來。參籠生馬。二七日。祈菩提心。念文殊。同年四月

二十日。與正菩薩受十重。二十四歲仁治元。
窮情上人聽古迹。則觀無常捨身財。悉施負
乏。圖佛像。同年四月第三日。與正菩薩稟十
戒。同十一日受具戒。遁世後住西大寺。僧衣
洗濯掃房舍。借書諸寺。與學徒。建常施院。扶
病客。修悲田院。濟乞丐。不堪行步。疥癩人。自
負送迎。奈良市。所有衣服施泚人。我著疊。懸
湯暖。膚到北山宿。誠現業癩者。改悔謗法。派
圖文殊像。摺般若。大聖感夢示詠歌。二十七
歲寬元。元關東下向。七月上。造五丈六丈。殊

像。同年先妣十三回。癩宿十八集千人。悉施
飲食勸齋戒。二十九歲同三年。泉州家原稟
別受寶治元年三十一。唐船歸朝。赴鎮西。請
來律宗三大部。三十六歲建長四。關東下向。
弘律儀。先詣春日祈擁護。折社柳枝。誓隨逐。
八月十四就鎌倉。九月十五詣鹿島。參籠三
日。獻法華。極月四日到三村院。主歸德作律
院。止住十年。移柳營。三十八歲同六年。始授
具戒。作和上。生年四十同八年。鹿島神託示
靈異。四十五歲弘長元。請鎌倉住釋迦堂。四

十六歲同。二年。光業召請多寶寺止住五年。行僧法。新宮之跡同。四年。泚人施行三千餘。四十九歲文永二。始授灌頂為闍梨。後授三十有餘人。西明禪儀受重病。八幡告夢奉戒法。五十一歲文永四。八月移住極樂寺。講三大部則七反。宗要三十古迹七。教誡三十淨心三。讀章服儀誠蠶衣。五十餘人斷絹絮。三時勤行二時食。除病急緣無懈怠。不畜餘長著履衣。不噉美食。先儉約。取菓子種植山野。獄舍施行盲。杖泚人。與袋狗子飼病者施。

藥捨子養出持錢貨施乞丐。入用餅果。藥覺。每日三座供養法。四分梵網隔日誦文殊講式壽量品。遺教行願各一卷。地藏文殊觀自在。種子名號各一反。書寫三禮為衆生。釋迦三願舍利禮十方諸佛及師僧。三時禮拜各三遍。地藏小呪并寶號。八字文殊各一反。一稱一禮不為身。萬行萬善迴法界。同年極月受灌頂。阿性上人勸修寺。五十三歲文永六。江島祈雨甘雨降。鐵塔供養九月八。黃蝶魚蛤集聽聞。新宮草創同。六年。五十六歲同。

九年。立十種願。利羣生。同十一年。飢饉。死於
大佛谷。集飢人五十餘。日施粥等。五十九歲
建治元。陽春三月二十三。當寺炎。上堂舍滅。
塔婆建。立同二年。文殊告夢。成合力。舞樂供
養弘安元。靈神感。夢結緣人。皆生淨土。悟無
生。自建治三。至弘安。文殊二幅。每月圖。二十
五日。與緇素。六十二歲弘安元。權尾山頂建
寶塔。掘出礎石。數十。六。六十五歲同四年。御
教書下。異國祈。七夜不斷。四王咒。稻村百座
仁王講。三千餘艘。悉退散。六十七歲同六年。

疫癘滿國。人民卒。和尚悲愍。集門前。每日僧
徒加療養。六十八歲弘安七。祈雨齋戒滿六
年。度々請雨。勸齋戒。一々莫不降大雨。同年
補任二階堂。五大堂大佛。別當。生年七十同
九年。始奉祈雨。御教書。請雨止。雨二十餘。每
度無不施效。驗金堂供養同十年。八月九日
真言供。桑谷病屋同十年。不擇親疎。病者集。
和尚恒臨。致問訊。七十二歲正應元。八月上
洛謁本師。興正菩薩為闍梨。九月十九受灌
頂。正應已後十二年。初受重受比丘戒。二千

六百八十人。三十九年，則不記。七十五歲同，四年。始結戒壇，行別受。兩度。四日六十人。七十六歲正應，五。興正菩薩第三迴。上洛供養，四王堂。勸惟干領施諸僧。七十七歲永仁元，異國降伏院，宣下。四月上洛到八幡尊勝神，呪七晝夜。同年八月奉綸旨，補東大寺大勸，進。七十八歲同，二年。四天王寺大勸進。建石鳥居二丈五。八十一歲永仁五。八月九日真言院草創供養曼陀供。八十二歲同，六年。建立坂下馬病屋。常莅彼廐唱佛名。札書真言。

令繫頸。新宮災，上正安二。陽春二月二十三，不送年，月致新宮勸請諸神十二社。八十五歲正安三。田那部池感祈雨未及歸寺大雨降。八十七歲嘉元元。累日炎旱草不枯。普授齋戒三萬餘。一日摺寫大般若。一滯不降。經五日。清瀧祈誓捨身命。小蛇出現。甘雨降。伽藍草創八十。三百五十四堂供養。寺院結界七十九。塔婆建立二十。基二十五。基塔供養。渡一切經十四。藏圖書地。藏兵男女一千三百五十五。請來律宗三大部。一百八十六部。

也。戒本摺寫其僧尼三千三百六十卷。馬衣并惟其非人都合三萬三千領。水田一百八十町。寄進聖跡三十二。豆橋一百八十九。作道七十一箇所。三十三所掘井水。六十三所殺生禁浴室病屋非人所各立五所休苦辛三十七年當寺住下洛以後五十二。自行化他滿足已。嘉元元六二十三。子時一寢病不愈。貴賤問訊終不斷。遺誠慙懃著大衣口誦秘明手結印。端座不動對釋尊。遂使壽算八十七。通受夏臘六十一。七月十二子入滅。延

慶第三冬十月。小比丘澄名謹誌。右偏為慕德結緣。只志之所之。不顧人嘲。列二百五十句。擬二百五十戒。只恨纔讀口不行。身可慙可慙。可悲。可悲。

以上

鐘樓

大日本國相州鎌倉府靈山山極樂寺

鐘銘

降伏魔力。怨除結盡。無餘露地。擊捷。植菩薩。聞當集諸。欲聞法。人度流生死。海聞此妙響。

音盡當雲集此。一聽鐘聲當願衆生。斷三界
 苦頓證菩提。伏乞聖朝安穩。天長地久。伽藍
 繁昌。興隆佛法。十方施主。現當二世。心中所
 願。決定圓滿。于時寬永四丁卯年。二月廿五
 日。當寺住持沙門慧印。行事比丘慧性。勸進
 願主岩澤玄蕃。允并伶人源左衛門。

辨慶腰懸松。門ヲ入北ノ方ニアリ。義經腰越ヨリ
 押歸サレシ時。辨慶此松ニ腰ヲ懸。鎌倉ノ方ヲニ
 ラミタリト云傳フ。

切通 極樂寺ノ前ノ道。由井ノ濱ノ方へ出ル切通

ナリ。忍性菩薩。切開カレシト云フ。太平記ニ。新田
 義貞ノ大將大館次郎宗氏。十萬餘騎ニテ。極樂
 寺ノ切通ヨリ向フトアルハ此所也。南ノ方ハ稻村崎
 ナリ。下ニ詳ナリ。

○月影谷 附阿佛屋敷

月影谷ハ極樂寺ノ地内。西ノ方ナリ。昔ハ層ヲ作ル者
 居住セシトナリ。此所ニ阿佛屋敷アリ。十六夜日。記
 ニ。東ニテスム處ハ。月影谷ト云ナル。浦近キ山本ニテ。
 風イトアラシ。山寺ノ傍ラナレバ。ノドカニスゴクテ。浪ノ
 音松風タヘズトアリ。英勝寺ノ地内ニモ阿佛屋敷ト

云有。彼コハ葬タル所ナル故ニ阿佛卵塔屋敷ト云。住
シ處ハ此谷ナリ。阿佛。為相ノ事。卵塔屋敷。為相ノ石
塔ノ條下ニ詳ナリ。

○聖福寺舊跡

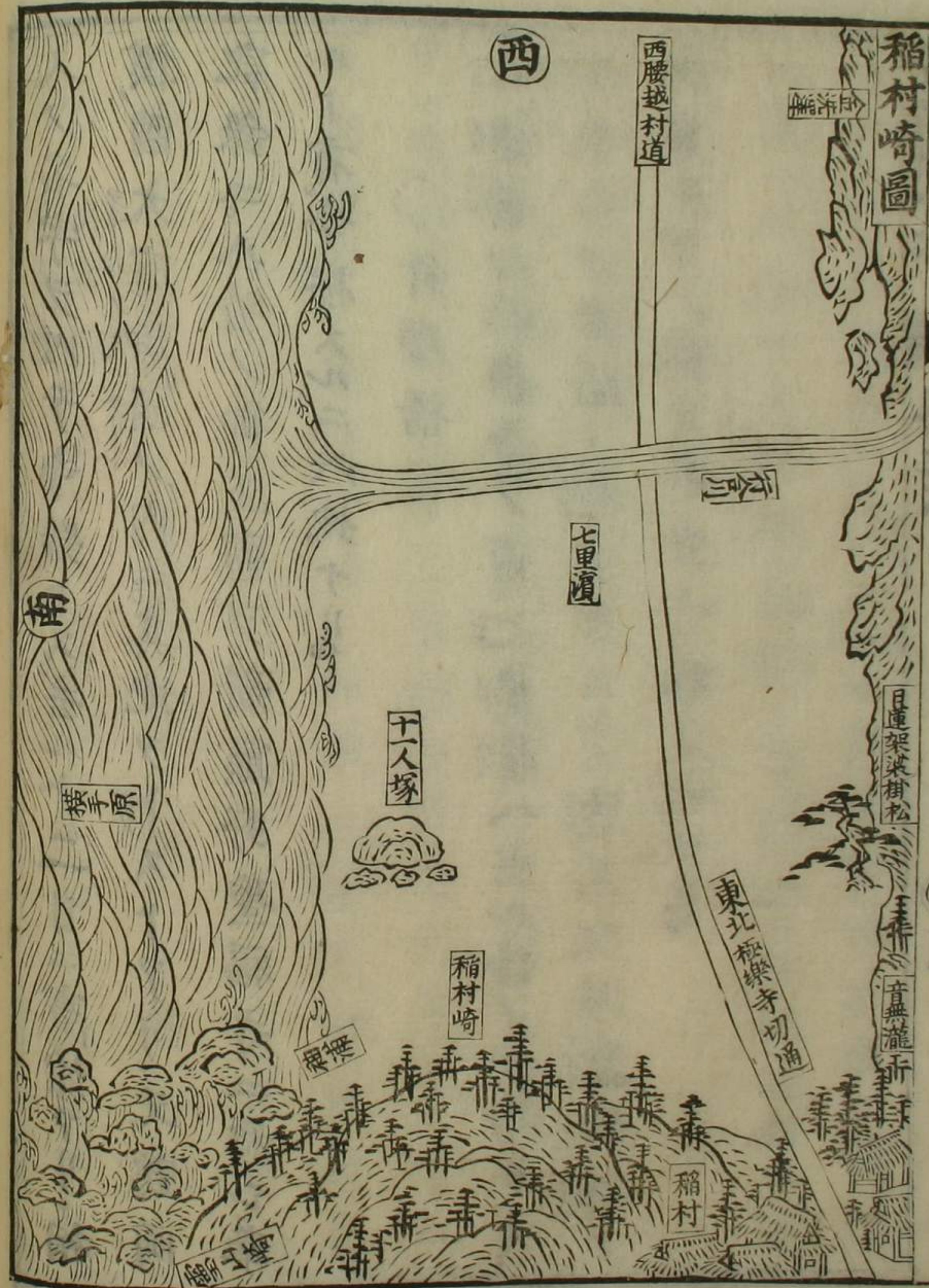
聖福寺^{シヨフジ}。舊跡。極樂寺ノ西南ニアリ。大ナル谷ナリ。此
地ニ熊野権現ノ社アリ。東鑑ニ。建長六年四月十八
日。聖福寺ノ鎮守。諸神ノ神殿^{ミヤ}上棟^{ウエ}。所謂神驗。武
内。稻荷。住吉。鹿島。諏訪。伊豆。宮根。三島。富士。夷
社等ナリ。是總ジテ。關東ノ長久。別シテ相州時頼
ノ兩男^{シヨフジ}。福壽丸^{フクシユ}。息災延命ノ為ナリ。因テ彼兄弟兩

人ノ名字ヲ以テ寺號トス。去ル十二日ニ事始アリ。相
模國大庭^{オホニ}御厨^ミノ内ニ。其地ヲトストアリ。又鶴岡
記録ニ。八幡ノ御正體ヲ。新熊野聖福寺ニ移シ奉
ルト有。今按スルニ此地ナリ。

○針磨橋

針磨橋^{ハリ}。極樂寺ノ南。七里濱^シへ出ル路ノ小橋ナリ。
唐李白^{タウ}か老嫗^{ラウ}ノ杵^キヲ磨スルニ逢^{アヒ}。又江州磨針^{スリ}峠^{トウ}ノ
故事ナドノ例カ。鎌倉十橋ノ一ナリ。

稻村崎圖



○稻村

附稻村が崎

横手原

稻村ハ極樂寺ノ南ナリ。海道ノ東方ニ。稻ヲ積タル如
ノ山アリ。故ニ稻村ト名ク。昔源満兼ノ舍弟満直
此村ニ居ス。故ニ稻村殿ト云。又里見義豊ヲモ稻村
殿ト称ス。是ハ房州ノ稻村ナリ。南ノ海濱ヲ稻村崎
ト云。東鑑ニ。建久二年。九月廿一日。頼朝卿。海濱
ヲ歴覽シ給ニ。為ニ。稻村崎ノ邊ニ出御。小笠懸ノ勝
負アリト有。此海邊ヲ横手原ト云。太平記ニ。新田
義貞。廿一日ノ夜半ニ。此處へ打蒞ミ。明行月ニ。敵
ノ陣ヲ見給へハ。北バ切通極樂寺也。山高ク路險ニ。木

戸ヲ構へ。垣楯ヲ搔テ。數萬ノ兵陣ヲ雙ベテ並居
タリ。南ハ稻村崎ニテ。沙頭路狹キニ浪打漕テテ
逆木ヲシゲク引懸テ。澳四五町カ程ニ。大船共ヲ並
ベテ矢倉ヲカキ。横矢射サセント構ヘタリ。誠ニモ此
陣ノ寄手叶ハデ引ヌランモ理リ也ト見給ヘバ。義貞
馬ヨリ下給ヒ。海上ヲ遙々ト伏拜シ。龍神ニ向テ祈
誓シ給ヒケレバ。其夜ノ月ノ入方ニ。前々更ニ千八事
モナカリケル稻村崎。依ニ二十餘町干上テ。平沙渺
渺タリ。横矢射ント構タル數千ノ兵船モ。落行潮ニ
サソハレテ。遠ノ澳ニ漂ヘリト有ハ此所ナリ。故ニ横

手原トハ名ルナリ。

○靈山崎

靈山崎ハ稻村東南ノ出崎也。昔ハ極樂寺ノ境内
ナリ。極樂寺ヲ靈山ト號ス。故ニ此崎ヲモ名ク。此
處ニ佛法寺トテ忍性住セシ寺アリシトナリ。忍性
御教書ヲ承テ雨ヲ祈シモ此所也。日蓮モ此所ニ
テ雨ヲ祈ル。法華ノ經文ヲ板ニ書テ流ス。今ニ其
板往々ニ藏ス者アリト云フ。

○袖浦

袖浦ハ稻村崎ノ海濱。形袖ノ如シ。故ニ袖ノ浦ト云

フ。順徳帝ノ御製ニ。袖ノ浦ノ。花ノ浪ニモ知サリキ。イ
 カナル秋ノ色ニ戀コヒツ。定家ノ歌ニ。袖ノ浦ニ。夕マラス
 玉ノ碎クサケツ。ヨリテモ遠クカヘル波哉。西行ガ歌ニ。レ
 キナニ。獨ヤ子ナン袖ノ浦。サハグ湊ニヨル舟モナシ。
 鴨、長明ガ歌ニ。浮身ウキミヲバ恨ウラミテ袖ヲヌラストモ。サレ
 モヤ浪ニ心碎クサケン。

○十一人塚

十一人塚ハ。稻村ヨリ七里濱ヘユク道ノ左ニアリ。
 里、民傳ヘテ。昔シ新田義貞ノ勇士十一人。此所ニテ
 討死ウチシシタリシヲ。塚ニツキコメ。上ニ十一面觀音堂

ヲ立タル跡ナリト云フ。義貞ノ勇士十一人未考也。
 昔ヨリ此濱邊ハ戰場ナレバ。イツレノ人ヲカ云傳ヘ
 タル。不審。

○七里濱

七里濱ハ。稻村ヨリ。腰越コシマデノ間ヲ七里濱ト云
 フ。關東道七里有ア。故ニ名久。古戰場ナリ。今モ
 太刀カタノ折フレ。白骨ハシナド。砂ニ雜ミテ有ト云フ。此濱ニ鐵
 砂サアリ。黒キ事漆ウツクノ如シ。極細ニシテ。イサハカモ餘ノ
 砂ヲ不交マ。日ニ映スレバ輝カテ銀ノ如シ。庖丁ウチ小刀カ等
 ヲミガクニ佳也。又花貝ハナトテ。ウツクシキ貝カアリ。兎

女拾ヒラテ作り花ニスル也。櫻サクラ貝ガイトモ云。櫻色ナル故ナリ。

○音無瀧

音無オナナ瀧タケハ針磨橋ハリノハシヲ渡リ。七里濱シリノハマへ出レハ石ノ方。妙山ミヤノノ松陰マツノカゲヲ廻マワリ傳ツタテ落ル瀧タケナリ。妙山ミヤノナルユヘニ常ニ水音ミヅノネモセズ。故ニ名ツク。

○日蓮架架掛松

日蓮ニチレン架架カカ掛松カケマツハ音無瀧オナナタケノ少シ南ナリ。海道ヨリ北ニアル一株ノ松ナリ。枝葉タレタリ。日蓮ニチレン龍口リウクチニテ難ニ遭オシシ時。架架カカヲ此松ニ掛カケラレタリト云傳フ。

○行合川

行合ユキガハ川カハハ山ヨリ海ノ方へ流レ出ル川ナリ。日蓮龍口ニチレンリウクチニテ難ニ遭オシ給タマシ時。奇瑞多キニ因テ。其由ヲ鎌倉へ告ル使者ト。又時頼トキタカノ赦免ノ使者ト。此川ニテ行合ユキガハタル故ニ名ク。鶴岡一鳥居ヨリ。此川マデ。三十九町アリ。

○金洗澤

金洗カネアヒ澤ガハハ七里濱ノ内。行合ユキガハ川ノ西ノ方ナリ。此所ニテ昔シ金ヲ掘ホタル故ニ名ク。東鑑ニ。養和二年。四月。頼朝ヨシトカ。腰越コシニ出イ。江島エノシマニ赴ツクキ還リ給フ時。金洗澤ノ邊ニテ。牛追物ウシヲアリト有。又元年。六月六日。炎旱ヒ。沙旬サジユ。仍ナ今。日雨ヲ祈イ。為ニ靈マ。七瀬ノ御被ミヲ行フ。由

比濱ヒノハマ。金洗澤カキアヒ。固瀨河カタセガハ。六連ムツラ。袖河スエガハ。杜戸ツド。江島エノシマ。龍穴リウケツトアリ。

○津村

津村ツクラ。或或ハ佐サ。金洗澤ノ山ノ後口ナリ。東鑑ニ賴家將軍ノ時。積良ツクヨシニマル古キ柳コナキヤナギ名木ノ由ニテ。御壺ミウツニ移シ。植ウヅノ事アリ。按スルニ。昔ノ津村ノ湊ト云ハ此所カ。或云。腰越津村ハ一郷ナリ。水濱ヲ腰越ト云。漁父ノ苦屋也。山間ヲ津村ト云。農夫ノ柴廩ナリ。江島ノ縁起ニハ。ツブラト書。圓大臣ト云アリ。

○小動 附八王子宮

小動コユルギハ。七里濱ヲ西へ行。腰越へ入左ノ方。離レタル

巖山イハヤマアリ。此所ヲコユルギト云フ。山上ニ八王子ノ宮アリ。又山ノ端ニ。海邊へ指出タル松アリ。風波ニ常ニ動クユヘニ。コユルギノ松ト云ト也。土御門内大臣ノ歌ニ。コユルギノ。磯ノ松風音スレバ。夕波千鳥々千廿ハグナリ。又北條氏康ノ歌ニ。キノフタチ。ケウコユルギノ磯ノ波。イソヒテユカン夕暮ノ道。此等ノ歌。此所ノ事トモ云ヒ。或ハ大磯ノ濱ヲ詠トモ云フ。相摸ノ名。所コユルギノ歌多シ。

新編金鑑卷之六

腰越圖



○腰越村

腰越村ハ江島ノ前村ナリ。江島ノ縁起ニハ昔江島ニ惡龍住テ人ノ子ヲ吞タル故ニ子死戀ト書リトアリ。此村ノ西北ハ固瀨村也。太平記ニ新田義貞遣兵二萬餘騎ヲ卒シテ片瀨腰越ヲ打廻リ。極樂寺坂へ打返シ給フトアルハ此道筋ナリ。假粧坂ノ方へ向ハレケルユヘニ打廻リトハアルナリ。鶴岡一鳥居ヨリ。此所マテ六十町アリ。

○満福寺 附硯池

満福寺ハ腰越村ノ中ニアリ。龍護山ト號ス。真言宗ナリ。開山行基。本尊藥師。不動。此寺地ハ昔源

義經宿セラレシ所ナリト云フ。東鑑ニ。元曆二年。五月二十四日。源廷尉義經。如思二朝。敵ヲ平ゲ訖。又。刺へ前内府平宗盛ヲ相具シテ參上ス。其賞兼テ不疑處ニ。日來不儀ノ聞へ有ルニ依テ。忽御氣色ヲ蒙リ。鎌倉中ニ入ラレズ。腰越ノ驛ニ於テ。後二日ヲ涉ルノ間。愁鬱ノ餘ニ。因幡前司廣元ニ付シテ。一通ノ款狀ヲ頼朝へ奉ツルトアリ。其狀ノ下書也トテ。今寺ニアリ。辨慶カ筆跡ト云。狀中ノ文字。東鑑ニ載タルトハ。所々異ナリ。或人云。新筆ナリ。辨慶カ筆ニハ非スト。

硯池 ○寺ノ前ニアリ。相傳フ義經ノ命ニテ。辨慶款狀ヲ書シ時。硯水ヲ汲タル池ナリト。池ノ端ニ辨慶カ腰懸石トテアリ。

○袂浦

袂浦ハ腰越村ヨリ。江島へ行直道アリ。其ノ左ノ濱邊。袂ノ形ノ如ナリ。故ニ名ク。夫木集ノ歌作者不知ナヒキコシ。袂ノ浦ノカヒシアラバ。千鳥ノ跡ヲタヘズトハナシ。

○龍口寺

龍口寺ハ腰越村ノ内ナリ。寂光山ト號ス。日蓮遷化ノ後。弟子六老僧。カヲ合テ建立ス。因テ日蓮ヲ開山トス。此寺ハ八箇寺。輪番ニ住持ス。妙典寺比企谷末寺也本成寺。

身延ノ本立寺。比企谷ノ末寺也法源寺。中山ノ末寺也本蓮寺。本國寺ノ末寺也觀

行寺。玉澤ノ末寺也東漸寺。中山ノ末寺也淨立寺。碑文谷ノ末寺也是ヲ固瀨ノ

八箇寺ト云。皆龍口寺ノ近邊ニアリ。

本堂 日蓮ノ像ヲ安ス。堂内ニ日蓮首ノ座ノ石トテ

アリ。注畫讚ニ文永八年九月十二日。日蓮難ニ遭イラトアリ。

日蓮ノ土籠 堂ノ西ノ山ノ根ニ巖窟アルヲ云フ。前ニ日

蓮ノ敷皮石トテアレ共非ナリ。堂内ニ有ラ以テ正トスト云フ。

番神堂 本堂ノ東ニアリ。松平飛彈守利次室。再

興スト云フ。

龍口明神 寺ノ東山上ニアリ。注畫讚ニ云。欽明

天皇十三年四月十二日。此土ニ天女降リ居ス。是

辯才天女ノ應作ナリ。此湖水ノ惡龍。遙ニ天女ノ

美質ヲ見ミ竊ヒニ感シテ天女ノ所ニ至ル。天女不快

ニシテ曰。我ニ本誓アリ。普ク羣生ヲ救フ。汝キ慈憐ナ

クシテ生命ヲ斷。何ゾ好速キナラシ。龍曰。我教命ニ

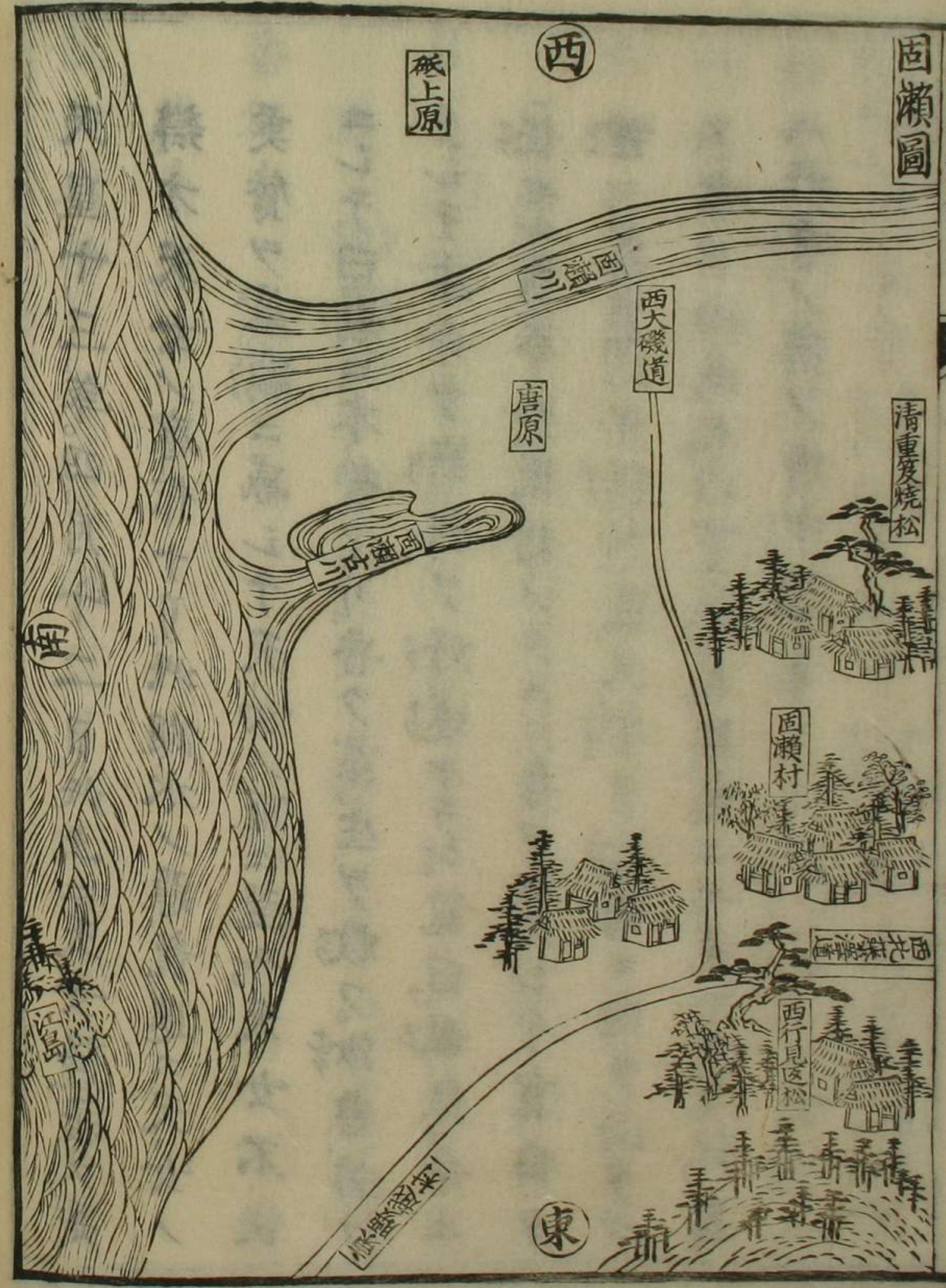
任セシ。自今以後。物ノタメニ毒ヲセズシテ哀憐ヲ

垂シ。天女則千諾ス。龍又誓ヲ立。南ニ向テ山ヲナ

ス。龍口山是也。此事江島縁起ニモ見ヘタリ。江島

ハ此寺ノ南ノ海中ニアリ。

固瀨圖



○固瀨村 附固瀨川

固瀨或作片瀨村ハ腰越村ノ西ナリ。河アリ固瀨川ト云フ。駿河次郎清重シゲヒコ戰死ノ所ナリ。大庭三郎景親ナガノリヲ梟首セシ所モ此河ノ邊ナリ。太平記ニ。義貞ヨシサダ鎌倉合戰ノ時。片瀨腰越十間坂五十餘箇所ニ火ヲ懸ルトアリ。又昔青砥左衛門藤綱フジノ平時頼三島詣テノ時。忍ビテ供奉シテ。片瀨川ノ中ニテ牛ノ屎ヲシケルヲ見テ。哀レ已レハ。守殿ノ御佛事ノ風情シケル牛カナト。打笑ヒケレバ。侍トモ。ユヘヲ問シカバ。サレバコソ。此數日雨フラズ。田畠葉ヲカラシ。諸

民飲ヲ悲ム所ニ此牛尿リヲセバ田畠ノ近キ所
ニテモアラデ川中ニテ捨流シツルコトヨト云。後此
事時頼ノ聽ニ達シテ仕進セシト。北條九代記ニ
見タリ。鎌倉大日記ニ正嘉元年十月ニ青砥左
衛門藤綱召出サル。政道補佐ノ為ナリトアリ。中
務卿宗尊親王ノ歌ニ歸來テ又見シ事モカタセ川
濁レル水ノステ又出ナレバ相傳此ハ將軍ノ職ヲヤ
メラレ。歸洛ノ時ノ歌ナリト。按スルニ東鑑ニ宗尊
親王路次ニ出御アリ。北門ヨリ赤橋ノ西ニユキ
武藏大路ヲ經テ彼橋ノ前ニ於テ御輿ヲ若宮

ノ方ニ向ヘ奉リ。暫ク御祈念有テ。御詠歌ニ及
ト有テ歌ハ不載。蓋此歌ナラシ。又藤原為相ノ歌
ニ打渡ス。今ヤシホヒノカタセ川。思シヨリハ淺キ
水我ト。鶴岡一鳥居ヨリ此地マテ。關東道十三里
許アリ。

○西行見返松

西行見返松ハ片瀬村へ行路邊ノ右ニアリ。枝葉
西方へ指。西行此所ニ來テ西ノ方ヲ見返。此松ノ
枝ヲ都ノ方ヘ子チタリト也。故ニ炭松トモ云フ。

○笈燒松

笈焼松ハ片瀬村ノ西ノ方。民家ノ後竹藪ノ際ニ
アリ。駿河次郎清重笈ヲ焼シ所ナリト云フ。

○唐原

唐モロコシ或ハ任ニ原ハ片瀬川ノ東ノ原ヲ云フ。更級記ニ唐
諸モロコシ悉ニ原ハ片瀬川ノ東ノ原ヲ云フ。更級記ニ唐
カ原。スナゴイミジウ白ク。大和ナデレコ。コクウスク。
錦ヲヒケルヤウニナシキタリトアリ。夫木集ニ藤
原忠房カ歌ニ。名ニシヲハハ。虎ヤ伏ラン東野ニアリ
ト云ナル唐ノ原。鴨長明カ歌ニ。マドロマニ。ヨナガニシ
バレムハ玉ノ。夢路ユメミチブ千カキ。モロコシノ原。懷中抄ノ歌
ニ。作ハ者ハ不レ知ル。遙トウカナル。中コソウケレ夢ナラデ。遠ク見ニケ

リ唐ノ原トアリ。

○砥上原

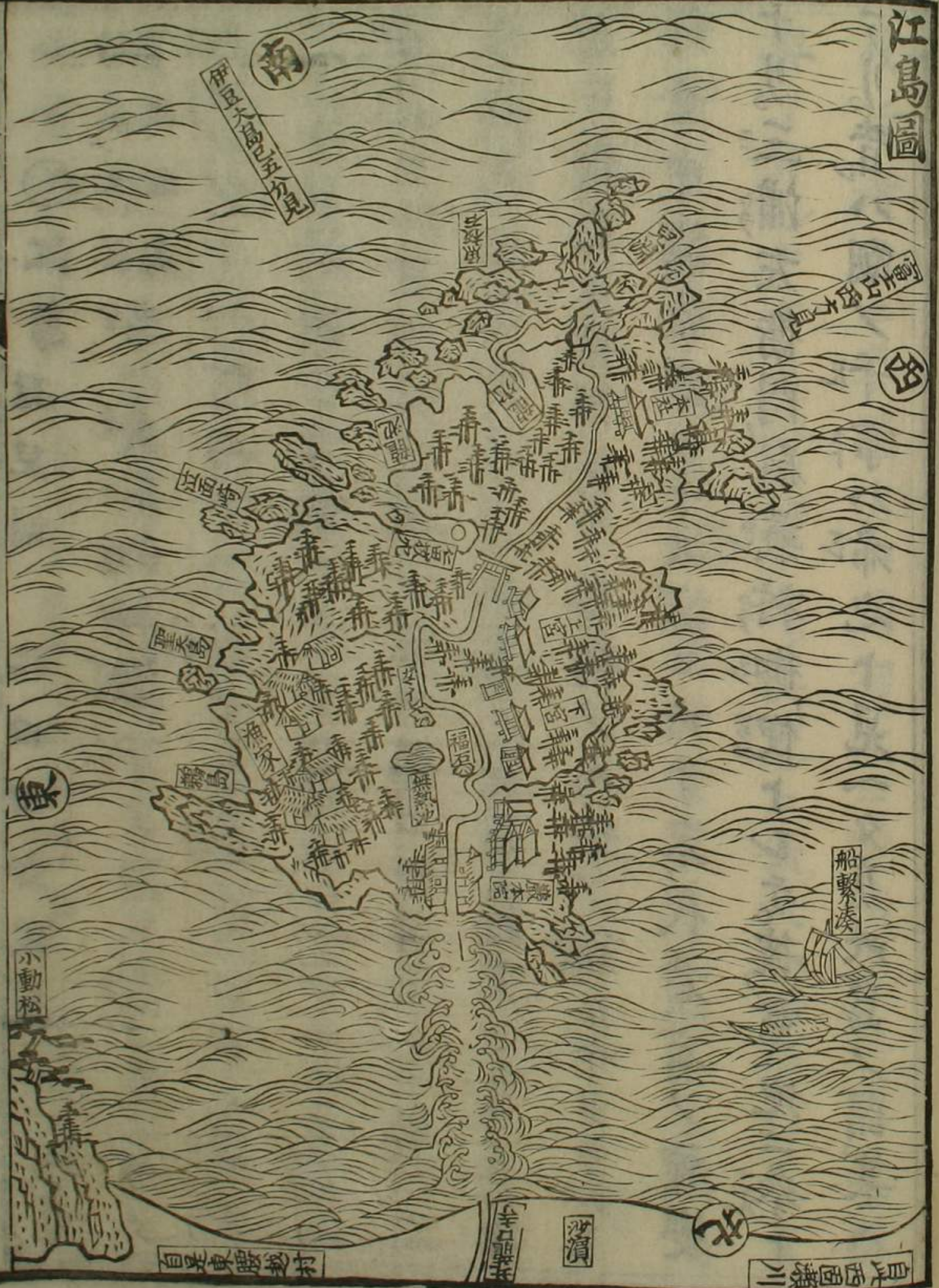
附八松原

砥トガミ上カ又ハ任ニ砥見見ニ原ハ片瀬ヨリ西ニ當ル。西行物語
ニ。トガミカ原ヲ過ルニ。野原ノ露ノヒテヨリ。風ニサソハ
レ。鹿ノナク聲コエキコヘケレバ。歌ニ。柴松ノクスノシゲミ
ニ妻ツメコメテ。トガミカ原ニ小鹿鳴ナリ。鴨長明カ歌
ニ。浦千カキ。トガミカ原ニ駒トメテ。片瀬ノ川ノシホ
ヒヲツマツ。又。五歸ル。名残ハ春ニ結ビケン。トガミカ原
ノクスノ冬カレ。此北ニ八松原ト云所アリ。盛衰記ニ。
三浦ノ人々。石橋ノ軍散ジテ。酒勾ノ宿ヨリ三浦へ

通ラントテ。馬ヲ早メテ行程ニ。八松原。腰越。稻村。由
 比ノ濱ヲ打越テ。小坪坂ヲ上ルトアリ。鴨。長明カ
 歌ニ。八松ノ。八千代ノカゲニヲモノレテ。トガミガラ
 ニ色モカハラジ。

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 八松原 and 腰越）

江島圖



新編金鑑

卷之六

九

○江島

附兒淵

仁田四郎拔穴

江チ或ハ作ル在ル島キ。金龜山キキ與願寺ヨト踞ス。陸カヨリ島ノ
 入イ口クマデ。十ト一町四シ十間許ガアリ。島ノ入口ヨリ龍穴
 マデ。十ト四町程アリ。潮シホノ干ヒタル時ハ後カ歩チニテモ渡ル。
 潮シホ盈ミタル時ハ六シ七町ノ間夕船ニテ渡ス。東鑑ニ建
 保四年正月十五日。江島ノ明神託宣アリ。大海
 忽ト干道路ニ變ス。仍モテ參詣ノ人。船ノ煩ウヒナカラシト。
 鎌倉中、緇素羣ヲナス。誠ニ以テ末代希有ノ神變
 ナリ。三浦左衛門尉義村御使トシテ。彼靈地ニ參ト
 アリ。昔ハ潮ノ干事ハ希也ト見ヘタリ。此島ノ開基ハ。

役行者。次ニ泰澄。次ニ道智。次ニ弘法。後ニ文覺再
 興アリシトナリ。縁起アリ。其畧ニ云。此所。景行天皇
 ノ御宇ニ。龍ノ暴惡熾ナリ。安康天皇ノ御宇ニ。龍鬼
 アリ。圓大臣ニ託シテ暴惡ヲナス。是人ニ託シテ煩シ
 ムル始ナリ。武烈天皇ノ御宇ニ。龍鬼又金村大臣ニ
 託シテ惱ス。此時五頭龍始テ津村ノ湊ニ出入シテ
 人兒ヲ喰。時ニ長者アリ。子十六人アリケルニ。皆龍
 ノ為ニ吞レヌ。西ノ里ニウツム。長者カ塚ト云フ。欽明天
 皇十三年壬申年。四月十二日ヨリ。廿三日ニ至テ。大
 地震動シテ。天女雲上ニアラハル。其後海上ニ忽ト一島ヲ

ナセリ。是ヲ江島ト云フ。十二ノ鷓鴣島ノ上ニ降ル。故ニ鷓鴣來島トモ云フ。此島ノ上ニ天女降リ居給ヘリ。遂ニ惡龍ト夫婦トナレリ。太平記ニ北條時政江島ニ參籠シテ。子孫ノ繁昌ヲ祈ケリ。三七日ニ當ケル夜。赤袴ニ柳裏ノ衣著タル女房ノ端嚴美艷ナルカ。忽然トシテ時政カ前ニ來テ告テ云ク。汝カ前生ハ箱根ノ法師ナリ。六十六部ノ法華經ヲ書寫シテ。六十六箇國ノ靈地ニ奉納シタリシ善根ニ依テ。再此土ニ生ル事ヲ得タリ。去ハ子孫永ク日本ノ主ト成テ。榮花ニホコルベシ。但シ舉動違所アラバ。七代ヲ不可過吾カ所

言不審アラバ。國々ニ納メシ所ノ靈地ヲ見ヨト云捨テ歸リ給。其姿ヲ見レバ。サシモ嚴カリシ女房。忽伏タル長二十丈計ノ大蛇ト成テ海中ニ入ニケリ。其跡ヲ見ルニ大ナル鱗ヲ三落セリ。時政所願成就シヌト喜テ。則彼鱗ヲ取テ旗ノ紋ニツ押タリケル。今ノ三鱗形ノ紋是ナリ。其後辯才天ノ御示現ニ任セテ。國々ノ靈地へ人ヲ遣テ。法華經奉納ノ所ヲ見セケルニ。俗名ノ時政ヲ法師ノ名ニ替テ。奉納筒ノ上ニ大法師時政ト書タルコソ不思議ナレトアリ。鴨長明カ歌ニ。江島ヤ。サシテシホ路ニアトタル。神ハ千カヒノフカキナルベシ。

法印堯慧歌ニテラサシト。江島モリヤカサスラシ。龜ノ上ナル山櫻カナ。

蘭溪和尚同遊江島歸賦以呈

宋大休 佛源禪師

江島追遊列俊髦馬蹄獵々擁春袍穿雲分座烹香茗策杖徐行踏巨鼇洞口千尋石壁長聳龍門三級浪花高須知海角天涯外萍水迎惟能幾遭

巖本院 島ノ入口右ノ方ニアリ客殿ニ額巖本院朝鮮國螺山書トアリ此島ノ別當ニテ真言宗

仁和寺ノ末寺ナリ此島ニ下宮上宮本社トテアリ。下宮ハ下坊司トリ上宮ハ上坊司トリ本社ハ巖本院司トルナリ下坊ト巖本院トハ妻帯ナリ上坊ハ清僧ナリ是ヲ江島ノ三坊ト云フ

寶物

刀ハ毘沙門金像 壹軀弘法作金厨子ニ入阿弥陀畫像 壹幅弘法筆北條氏康證文 壹通江島縁起 五卷詞書作者不知畫ハ土佐ナリ太田道灌軍配團 壹枚練物黒塗ナリ

馬玉 壹顆。

九穴貝 壹箇。

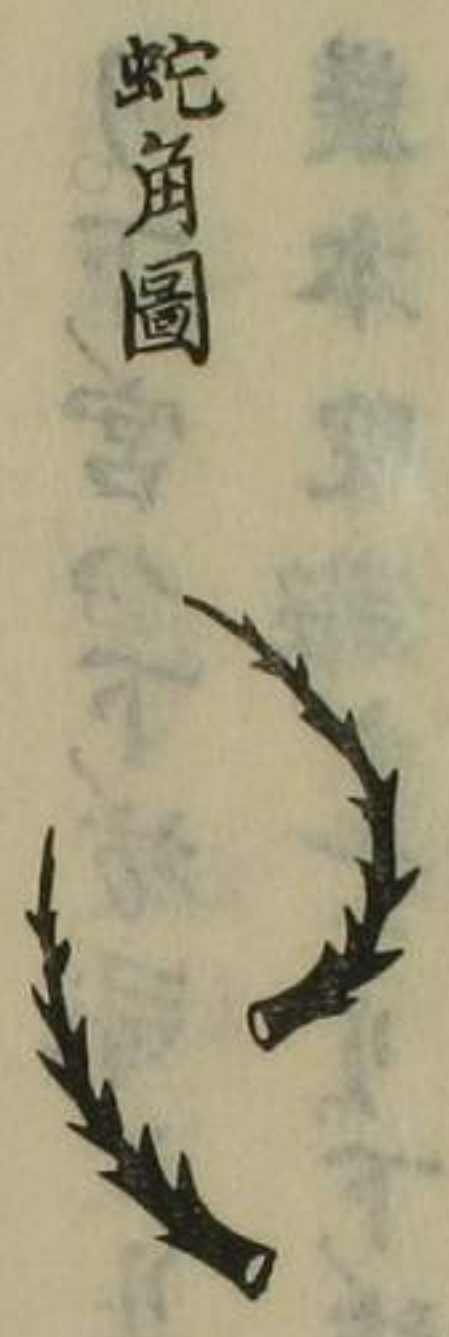
二岐竹 壹本。

蛇角 貳本。長一寸餘アリ。慶長九年。閏八月十

九日。羽州秋田常樂院尊龍ト云僧。伊勢參宮

シテ。内宮ノ邊ニテ。蛇ノ角ヲ落タルヲ見テ拾

リト云ノ添狀アリ。其形如左。



蛇角圖

慶安二年。御朱印 壹通。境内山林竹木等ノ免狀。

獵師町ノ地子。同ク船役ハ公役ナリトアリ。

以上

無熱池 下宮へ登リハ坂上左方ニアリ。天生。無熱

池ヲ象島ノ上ニアレドモ。旱天ニモ不涸ト云フ。

蝦蟆石 無熱池ノ岸邊ニアリ。相傳。慈悲上人此

島ニ籠シ時。蝦蟆出テ障礙ヲナシケル故ニ加持

セラレケレバ。終此石ト化シタリト云フ。

福石 無熱池ノ傍。坂ヲ上レバ左ニアリ。參詣ノ輩

此石ノ前ニテ。錢或ハ貝類ナドヲ拾フ時ハ。必ス富

家ト成故ニ名クトナリ。

下宮 縁起ニ。下宮ハ建永元年ニ。慈悲上人諱良

真ノ開基ニテ。源實朝ノ建立也トアリ。延寶三年

ニ再興ノ棟札アリ。本尊辨才天私法如意輪觀

音慈悲上人ノ像。慶仁禪師ノ像。實朝像ヲ安置

ス。下坊ツギド司ナリ。

碑石 宮ノ南ノ方ニ立タリ。高五尺バカリ。廣二尺

七寸。厚四寸。但上并ニ兩縁ハ別石ナリ。座石

可有物ナリ。歳古テ紛失シタル歟。今ハ土中へ掘

埋テ建タリ。碑文ノ所中ヨリ折テ續合テ建タリ。

俗ニ江島屏風石ト云フ。相傳此碑石ハ土御門

帝ノ御宇ニ。慈悲上人。宋國ニ至リ慶仁禪師ニ

見テ。此碑右ヲ傳ヘテ歸朝スト。篆額ハ小篆文

ニテ。粗大篆ヲ兼タリ。大日本國。江島靈迹。建寺

之記ト三行ニアリ。記ノ字ノ所石損ジテ見ヘカタ

シ。僅ニ言偏ヲ得テ記ノ字ナル事ヲ知ル。四傍ニ

雲龍ヲ彫付。極テ奇物ナリ。碑ノ文ハ剝缺ニテ

不分明。昔ク好事ニ搜索スレドモ曾知人ナシ。

但十畧ノ二字。性字。人ノ字。成字ナト。所ニ見

ヘタリ。字ハ楷書ナリ。碑石ノ圖如左。

碑石圖



篆額字體如左

大日本國
江島靈迹
建寺之記

十界
性
成
人
手

建	江	大
寺	島	日
之	靈	本
記	迹	國

鐘樓

宮ノ左ニアリ。鐘銘如左。

奉治鑄金龜山。與願寺。宇賀辨才天女
下宮鐘銘。

大日本國東海道相模州江島者。從金輪際
涌出之靈島。其福神託居之巖窟焉。加之人
王三十代。欽明天皇十三年。自四月十
二日戌刻。當于江野南海湖水之水門。雲霞
暗蔽海上。日夜大地六種震動。天女顯現。雲
上童子侍。左右諸天龍神。水火雷電。山神
鬼魅。夜叉羅刹。從天降盤石。從海攀砂礫。電

光耀空。火焰交白浪。同及于二十三辰刻。
雲去霞散。見海上有島山耳。今之三神山是
也。抑此神將王者。天地之起。陰陽之初。一
也。聞法年。看誰知空王。往事利生日。新何如
尊神。現德乎。本地則等覺妙覺之尊。大慈大
悲之濟渡衆。舊迹。六天童天女之體。其官。其
福之利益。是。新矣。因茲役。優婆塞詣此山。越
知。泰澄。居當島。傳教。窻前發願。影向弘法床
上。對請。恒臨。慈覺念時。常隨給仕。安然行場
應。滿。知。所以顯密權實。宗。宗。被冥助。文武

高農家。家々仰靈驗矣。肆信心之檀越等。攸奉治鑄蒲牢一聲。上徹梵天。頂下響地。輪底此土耳根利。故通用聲塵三寶證明之。諸天衛護之。總而天長地久。御願圓滿。別而施主懸志於辯天。本願任誠於大悲誓約。願祈善願。令悉地成就而已。維時寬永十四丁丑曆閏弥生吉祥日。天台傳燈三部都法大阿闍梨法印生。頃謹書下宮別當職權大僧都法印長伸。誓首敬白。

上宮 額辨才天。釋乘圓トアリ。緣起ニ上宮ハ文

德天皇仁壽三年。慈覺大師創造ス。上坊是ヲ司ル。本尊辨才天。慈覺作。宮ノ南ニ堂アリ。干體地蔵ヲ安ス。作者不知。本古佛ナリシカ。今紛失レテ大半新佛ナリ。役行者ノ古キ木像有。

鳥居 龍穴へ行山ノ上ニアリ。金龜山ト額アリ。筆者不知。東鑑ニ養和二年四月五日。武衛朝腰越ニ出シメ給ヒ。ソレヨリ江島ニ赴キ給フ。是高雅文覺上人。武衛ノ御願ヲ祈ラノ為ニ。大辯才天ヲ此島ニ勸請ス。今日即千鳥居ヲ立ラルトアリ。

昔ノ鳥居ハ何レノ時カ滅テ。今ノ鳥居ハ。近年石
ニテ建タリ。

本社 鳥居ヲ行過。龍穴ヘ下。行道ノ右ニアリ。近
年。下宮上宮ノ外ニ。本社ト號シ山上ニ建。立ス。
龍穴ノ内ニ。有ノ佛像ドモ。此社ニ遷置ナリ。
巖本院是ヲ司トルナリ。

鐘樓 社ノ北ニアリ。鐘ニ寛永六巳年。益夏十四日
ニ。西上州ノ住人齊藤佐次衛門重成ト云者
寄附スト彫付テ有。偈アレトモ録スルニ不足。
兒淵 龍穴ヘ行坂ノ巖下。右ノ方ノ海水碧潭如。

藍ナル所ヲ云ナリ。昔建長寺ノ廣徳菴ニ。自休
藏主ト云僧アリ。奥州志信ノ人ナリ。江島ヘ首
日參詣シケルニ。雪下相承院ノ白菊ト云兒。是
モ江島ヘ參詣シケルニ。自休藏主邂逅シテゲリ。
イカニモシテ。忍ヨルベキ便ヲ云ケレトモ。絶テ其返
事ダニナシ。猶サマシク云聞スレバ。白菊。センカタナク
テ。或夜マギレ出テ。又江島ヘ行。扇子ニ歌ヲ書テ。
渡守ヲ頼ミ。我ヲ尋ル人アラハ。見セヨトテカクナ
シ。白菊ト。シノブノサトノ人トバ。思ヒ入江ノ島ト
コタヘヨ。又。ウキコトヲ。思ヒ入江ノ島カゲニ。捨ル命

八波ノ下草ト詠テ。此淵ニ身ヲ投タリ。自休尋
来テ此事ヲ聞。カク思ヒツツケケル。

懸崖嶮處捨生涯。十有餘霜在刹那。花質紅
顏碎。岩石。娥眉翠黛接塵沙。木襟只濕千行
淚。扇。子空留二首歌。相對無言愁思切。暮鐘
為孰促歸家。

又歌ニ。白菊ノ花ノナサケノ深キ海ニトモニ入江
ノ島ヲ嬉シキト詠テ。其下、海ニ沈トナシ。故ニ兒
淵ト名トナリ。岩ノ間ニ白菊ガ石塔アリ。右ノ詩歌
ハ滑稽詩文ニ載タリ。自休像。法華堂ニアリ。

龍穴 是江島神窟辯才天ノ所居ナリ。東鑑ニ。

江島ノ龍穴ニテ祈雨ノ事往々見ヘタリ。法印堯
慧ガ北國紀行ニ。爰ヲ蓬萊洞トイヘル深秘ナリト
書タリ。相傳フ。弘法大師。弘仁五年ニ。此窟中ニ
參籠シテ。天照大神。春日。八幡等ノ諸神ノ像
ヲ刻テ勸請スト。窟ノ入口南ノ方ヘ向フ。海水
巖窟ニ湛テ甚危シ。左ニ傍岩尾ヲ傳テ内へ入也。
漸ク入テ窟中甚々暗。内ニ人居テ松明ヲ作テ
參詣ノ人ヲ導入。窟中ニ界アリテ左右ニ分レ行。
胎藏界ノ穴。金剛界ノ穴ト云。一町餘モ入テ。内ニ

石佛數多アリ。側ラニ私法祈リ出シタリトテ巖
間ヨリ清泉流レ落ルナリ。蛇形ノ池。弘法ノ臥石ア
リ。手ヲ以テ撫ルニ人肌ノ如ク滑ナリ。又護摩ノ
爐。石觀音。石獅子ナドアリ。弘法歸朝ノ時持來
シトナリ。是ヨリ奥ヘハ穴窄シテ。立テ入カタシ。行
タル人モナシト云。一年ニ一度ヅ、海波打入テ奥
マテヲ洗ヒ流ストナリ。ソレユヘカ甚ダ奇麗ナリ。鶴
岡一鳥居ヨリ。此龍穴マテ。關東道十五里アリ。
魚板石。龍穴前ニアリ。面平ニシテ魚板ノ如シ。遊
人或ハ魚ヲ割。鱧ヲ取シメテ見ル。此石上ニテ

四方ヲ眺望スレバ。萬里ノ廻船數百艘。海上ニ
ウカメリ。豆。駿。上下總。房州等ノ諸峯眼前ニ有。
無限風景ナリ。

龍池 龍穴ノ東ニアル入海ヲ名。昔惡龍出入ノ
所ト云。

仁田四郎拔穴 龍池ノ東ニアリ。穴ニツアリ。俗
ニニツヤグラトモ云。仁田四郎忠常。富士ノ人。穴
ヨリ此ヘ拔出タリト云傳フ。東鑑ニ建仁三年。六
月三日。賴家將軍。仁田四郎忠常ヲ。富士山
人。穴ニ遣シ。其所ヲ究メ見セシメ給。一日一夜ヲ

經テ歸ルトアリ。此所へ拔^テ出タリトハナシ。

佐^{ツラガサキ}面^{サキ}崎^{サキ} 拔^テ穴^{アノ}ノ東ノ出サキニアリ。

聖^{シヤウテン}天^{テン}島^{ジマ} 佐^{ツラガサキ}面^{サキ}崎^{サキ}ノ東ニアリ。

鷯^ウ島^{シマ} 始メ山ノ開ル時。鷯^ウ十^{ジュウ}二^ニ来^キテ此ニ集ル。故ニ

今モ辯才天ノ使者ナリト云フ

新編鎌倉志卷之六

